



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	明治一三年
Citation	北大百年史, 史料(一), 463-532
Issue Date	1981-04-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/30099
Type	departmental bulletin paper
File Information	siryo1_p463-532.pdf



明治一三年

三八三 体操器具買入の意見

第三号

千八百八十年一月三日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

予テ御談話御座候当校生徒ノ體質ヲ養生スルタメ便宜至当ノ法御取
設被成度御希望ノ旨ニ付医師カツターニ此事ヲ協議仕生徒ノ體質ヲ
養成スルニ須要ト想思スル器具ノ目錄ヲ調成センコトヲ請求致セシ
ニ即チ同人ヨリ千八百七十九年十二月三十日附ヲ以テ左ノ報告書ヲ
出セリ

抑モ健全無病ノ人タル各機関トモ運動ノ股分ヲ取ルモノトス若シ
此作用ノ欠クルアレハ養生ニ難シ其体ノ欠機即チ患部肉脱シテ多
少衰弱スルモノナリ譬ヘハ生徒日常ノ生活ニ於テハ体ノ下部及ヒ
右方専ラ運動ヲナシ用ヲ辨スルモノトス
然ルニ体ノ上部及ヒ胸部ハ運動不足ナリ故ニ体ノ性トシテ其欠ヲ
補ヒ之ヲ平均センヲ務ムルモノナリ
運動ノ大眼目ハ随意ノ筋肉ニ於ル組織ヲ養生スルト養生ノ不足ヲ
補ヒ間接ニ不随ノ筋肉ヲ奨励シ且ツ胸部ノ機関ヲ広潤トナシ其勢

力ヲ増成セシムルニ在リ

運動ハ機関ノ作用ヲ進歩セシムルト是ヨリシテ他ニ波及セシムル

トニ因テ差アリ故ニ左ニ掲載スル器具ヲ購求アランヲ勸奨ス

軽便耐久ノ体操器一具但シ各生徒ノ靴ヲモ添ユルモノトス

一 ドム、ベール（木製）

百対

一 バルベール

長三英尺各端ニO字形
ノ球アルモノヲ要ス

八十対

一 インヂアン、クロツプ（大小輕重トモ四通リ）

八十対

一 タラペジイ

一箇者上ニ重ネ
他ヨリ小ナルモノ

二個

一 ペール、リングス

一揃

一 ロウ、オフ、リングス数五箇

一揃

一 固定バルレルバル

一箇

一 ハウルチング、ホールス

一箇

一 ハウルチング、バル

一箇

一 マツトレツス

良ク塵芥ヲ
去レルモノ

二箇

一 シヨウルドル、エンウエーチング錘

二箇

一 直垂線

一条

一 直垂杭

一對

札幌本庁ヨリ東京出張所ヘ照会シテドクトル、ヂョージエー、リ
イランドノ管掌セル東京体操場ノ器械師及ヒ図者ヲ送致アランヲ

依頼セラレン事ヲ勸奨ス同所ニテハ現ニ使用スル器具ヨリシテ直ニ其模形図取及ヒ詳細ヲ法リ得ヘケレハナリ其器具ハ悉ク最モ耐久スヘキ物質ヲ以テ神速ニ製作セラレン事ヲ勸奨ス

右数件ノ建白ニ批スルニ於テハ一二ノ要件ニ閣下ノ注意ヲランヲ抑クハ余カ職務タルヘキト覺ユルナリ

当校ノ生徒者各自其科業ニ勉勵スル雖其體質ヲ強壯ナラシメ是ヲ以テ其精神ヲ奨励シテ現今ノ事業ヲ適時ニ連綿セシムヘキ運動ヲ務ムル甚タ寡キニ似タリ彼等ノ官員トナルヘキ勢力ハ其學業中専ラ其體質ヲ健全トナスニアリ是ヲ以テ其才力ト強健トヲ和調セシムヘシ若シ虛弱ナルニ於テハ體質柔弱ノ輕重ニ從ヒ遲速アリトモ必ス才氣モ衰フヘシ其故ハ是ヲ以テ天賦ノ維持力ヲ失ヘハナリ

我輩管理スル生徒適宜ノ運動ヲ怠レル確証只二アリ是レ既ニ冀望セサル結果ヲ來セシ等級ニ於テ明カナリ当校初年ノ間ハ欠席僅々ナレトモ其ヨリ遙カ時ヲ經テヨリ忽チ欠席ノ數ヲ増シタリ去学期中ハ醫師ノ診断書ヲ以テ許諾シ欠席セル數七十乃至八十二及ヘリ是ヲ以テ見レバ至當ノ官員ノ命ヲ以テ適宜ニ動作セシメハ大ニ其數ヲ減スヘキハ疑フヘカラス

前件ノ次第故余ハ謹テ閣下ニ左件ヲ勸奨ス

第一ドクトルカツターノ掲載セル諸裝置ヲ可成丈速ニ得ラレン事

第二目今東京ニ於テ使用スル模形ニ從ヒ之ヲ製作セラル、事

第三体操術ヲ農校ノ定則学科中ニ加ヘラレン事

第四前件ニ述フル体操術ハ理學及ヒ解剖學教授ノ定業ニシテ其者ハ每週若干頭ノ馬ヲ馴練スル事

本条ヲ御參考ニ供セハ允諾アランヲ請フ敬具

札幌農學校教頭心得デ、ビー、ペンハルロー手記

〔農一〇一〕

三八四 第二期授業時間割提出の件

第七号

千八百八十年一月十七日札幌於テ呈

開拓大書記官調処広丈閣下

一月廿二日ヨリ始ムル来学期中修業ノ次序ヲ此書ニ添ヘ謹呈ス
予科三級生内藤小林両氏ハ去学期中平均五十点下ナルヲ以テ退校セシメラレンヲ謹テ勸奨ス敬具

札幌農學校教頭心得デ、ビー、ペンハルロー手記

〔別紙一〕

千八百七十九年ヨリ八十年ニ至ル札幌農學校第二学期中學校教授
次序

札幌農學校教頭心得デ、ビー、ペンハルロー手記

土曜日	金曜日	木曜日	水曜日	火曜日	月曜日	
同上	同上	同上	同上	同上	英学	從八時三十分至九時三十分
同上	同上	同上	同上	同上	器械学	從九時三十分至十時三十分
	同上	農業	綴文	農学	発音	從十時三十分至十一時三十分
						從十一時三十分至十二時三十分
	練兵			練兵		從二時三十分至三時三十分
		同上	製図			從二時三十分至三時三十分

三年生

土曜日	金曜日	木曜日	水曜日	火曜日	月曜日	
						從八時三十分至九時三十分
同上	同上	同上	同上	同上	獣医学	從九時三十分至十時三十分
	同上	財政学	尋常論議	同上	財政学	從十時三十分至十一時三十分
同上	同上	同上	同上	同上	土木学	從十一時三十分至十二時三十分
	練兵				練兵	從二時三十分至三時三十分

四年生

火曜日	月曜日	
同上	英学	從八時三十分至九時三十分
同上	獣医学	從九時三十分至十時三十分
同上	財政学	從十時三十分至十一時三十分

ドルトルゼイ、シーカッターノ分科

命ニ從ヒ毎週三時間手術
農業ノ運動ハ其学科ノ教授到着迄施行スルヲ得ス

土曜日	金曜日	木曜日	水曜日	火曜日	月曜日	
						從八時三十分至九時三十分
同上	本草学	同上	同上	分析術	化学及ビ形体学	從九時三十分至拾時三十分
同上	同上	同上	同上	同上	三角術及測量	從拾時三十分至十一時三十分
		農業	本草学	農業	本草学	從十一時三十分至十二時三十分
		練兵				從二時三十分至三時三十分
				同上	製図	從二時三十分至三時三十分

二年生

命ニ從ヒ毎週二時間果樹栽培実験

月曜日	
化学及 形体学	分至分 十時三十 分三十
発 音	分至分 十時三十 分三十分
本草学	分至分 十時三十 分三十分
果樹栽培実 験ヲ命ス	午後

教授デ、ビーペンハルローノ分科

土曜日	金曜日	木曜日	水曜日	火曜日	月曜日	
同	同	同	同	同	器械学	分至分 十時三十 分三十
上	上	上	上	上		
同	同	同	同	同	三角術及 ビ測量	分至分 十時三十 分三十分
上	上	上	上	上		
同	同	同	同	同	土木学	分至分 十時三十 分三十分
上	上	上	上	上		
		同	同	同	製	分至分 十時三十 分三十
		上	上	上	図	

教授シーエツチビーボデイノ分科

土曜日	金曜日	木曜日	水曜日
同	同	同	同
上	上	上	上
同	同	同	同
上	上	上	上
	同	財政学	綴文
	上		

月曜日	
数学及 代数	分至分 八時三十 分三十
文 明 史	分至分 九時三十 分三十
英語及綴文	分至分 十時三十 分三十分
和 漢 学	分至分 十時三十 分三十分

一級生

千八百七十九年ヨリ八十年ニ至ル札幌農学校予科教授次序

〔別紙二〕

土曜日	金曜日	木曜日	水曜日	火曜日	月曜日	
	同	練		同	練	午後 從二時 至三時
	上	兵		上	兵	

加藤中尉

土曜日	金曜日	木曜日	水曜日	火曜日
同	本草学	同	同	同
上		上	上	上
			尋常論議	
			本草学	
			同	同
			上	上

月曜日	土曜日	金曜日	木曜日	水曜日	火曜日	月曜日	土曜日	金曜日	木曜日	水曜日	火曜日
読書及綴詞	同	同	同	同	同	英語	同	同	同	同	同
和漢学 §	和漢学 §	習字キ	和漢学 §	習字キ	和漢学 §	習字キ	和漢学 §	習字キ	和漢学 §	習字キ	和漢学 §
暗算	同	同	同	同	同	読書及綴詞	同	同	同	同	同
英語	同	同	同	同	同	地理学	同	同	同	同	同

二級生

二級生

土曜日	金曜日	木曜日	水曜日	火曜日
同	同	同	同	同
習字キ	和漢学 §	習字キ	和漢学 §	習字キ
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同

市郷氏 十宮崎氏 キ井川氏 §長尾氏

札幌農学校教頭心得デ、パイ、ペンハロー手記

〔農一〇一〕

三八五 卒業生採用及び語学教師雇入並に貸費生徴募に付同

(一月二六日検印済)

長官 花押

調所大書記官印

札幌農学校卒業生徒処分心得并将来生徒招募方ノ義ニ関シ左ノ条々御指令被下度此段予テ相伺候也

農学校生徒ノ内本年七月ニ至リ四ヶ年ノ学業相卒ルヘキ者十七名有之候処方今在校生徒一年生十四名二年生十六名三年生十七名教授補助ノ為メ右卒業生ノ内ヲ撰拔シ本校教授補助手トシテ数学科ヘ一名化学科ヘ一名農学現術ヘ一名各演武補ヲモ心得サセ御採用相成度此他ハ勸業地理両課并函館七重等ヘ御差廻相成可然哉

右生徒御採用ニ臨ミ其俸給等ヲ考フルニ文部大学校卒業生中医師ハ月俸百円其余ハ同七拾円位ニ有之此他諸省ノ卒業生ヘ給与ノ俸給等凡ソ別紙ノ通ニ有之哉ニ伝承致候得共本使農学校ノ義ハ都テ実用ノ學術ヲ主眼トシ養成候生徒ニテ卒業ノ後其従事スヘキ順序モ亦全ク他ニ異ナリ候ニ付准判任官御用係ニ御採用俸給ハ其學術及ヒ品行ノ優劣差等ニヨリ左ノ通御支給相成可然哉

一上等月俸 自四十円至五十円

一中等月俸 自貳拾五円至三十拾五円

一下等月俸 自貳拾五円至三十拾五円

本年七月ノ学期ニ及ヒ専門科入学ノ生徒ヘ教授スヘキ語學教師ニ差支候処内国人ニテハ語音不整ノ為メ専門科教授難為致是迄該校ニ文部学校卒業生等御採用相成候事モ有之候得共語學ニ至リテハ到底純然タル外国人ニ非ザレハ不能就テハ東京横浜等ニ在留外国人中ニ就キ相当ノ者一名相撰ヒ御雇入相成候様致度尤右ハ語音ノミヲ主トスル義ニ付學術等ハ格別相撰ヒ不申積リニ候間俸給ハ下給ノ者ニテ可然被存候

本校生徒ノ義ハ從來官費ヲ以テ徵募相成来リ候処自今ハ貸費ヲ以テ招募シ卒業ノ後月賦ヲ以テ其學費ヲ償還セシメ候方好都合ト被考候ニ付其貸費額概略左ノ通取調申候

一金五円九拾四錢五厘 一ヶ月貸費金額

金四円五拾錢

食費一ヶ月分但シ一日金拾五錢

金壹円

一ヶ月筆紙墨代

金三拾貳錢

同 洗濯代

金拾貳錢五厘

同 理髮費

外ニ

一金貳拾八円七拾錢

一ヶ年被服費其他

金六円五拾錢

冬服肌着襦袢 壹組

金五円四拾錢

夏服 同 同

金壹円

帽 壹組

金五円五拾錢

寒サ着并両着

金壹円八拾錢

短靴 壹足

金三円貳拾五錢

長靴 壹足

金九拾錢

上ハ靴 壹足

金貳円

農業服 壹組

金貳円三拾五錢

寝衣

内 金壹円五拾錢
金八拾五錢

袷衣 壹枚
単衣 壹枚

右被服費金貳拾八円貳拾五錢ヲ十二ヶ月ニ割ル時ハ平均一ヶ月金貳円三拾九錢壹厘六毛六トナル

但本科生ハ平常胸服難用者ト雖トモ武芸或ハ農業現術場ニハ必ス胸服着用スヘシ

以上

〔別紙〕

名 称	貸 費 ノ 額	在 学 ノ 期	卒業後採用ノ 節等級并俸給
大学卒業生	自四円 至五円	四年	自七十円 至百円
工部学校同	未詳	六年	未詳
陸軍士官校同	同		少尉
海軍兵学校同	同		少尉 試補
司法省同	七円	二年	自十二円 至十五円

〔農一〇一〕

三八六 卒業後高尚の学科を修めしむる者推薦の件

第十三号

千八百八十年一月廿六日札幌ニ於テ

開拓大書記官調所広丈閣下

閣下口頭御依頼之旨ニ拠リ現今四年生ニシテ其卒業ノ后高尚ノ学科ヲ修メシムルヲ適當ト各職員ノ識認スル学徒ノ姓名ト右ニ適應之学科ヲ出シテ以テ貴覽ニ供フ

数学及土木学科

佐藤昌介

農学及本草学科

荒川重秀

化学及地質学科（但シ本科中ニ地誌学及礦学ヲ含ムベシ）

小野兼基

蓋シ此三名ヲ撰奉セシ原因ハ左ノ三条ニ由ル即チ

第一 学力

第二 各自其撰ニ当レル学科ヲ修ムルニ特ニ格好スルコト

第三 健康即チ平素ノ容体

荒川小野両子ハ至極健康ナレトモ佐藤子ハ身体虚弱ノ為メニ全科ヲ卒フル迄修行シ得ルヤヲ保ツ能ハザルナリ然レトモ風土ノ変換ハ必スヤ同子ノ為メニ宜シカラシ將又誰カ責ヲ負フベキシ人ニ同子ノ衛生ヲ委ネ而シテ古来日本ノ風トシテ（自カラ秀逸ナランヲ欲シ実ニ賞讃ニ堪ヘザル勉強ハ）外国留学生中ニ尤普通ナル摂生ニ背ケル過度ノ勉強ヲ遏止セバ同子ハ其失フ所アルヨリハ寧ろ遙ニ得ル所アルコト余カ確ク信スル所ナリ

今右ノ三子ハ如何様ノ事業ト雖モ能ク之ニ当ル無上ノ利益ヲ占メンコトニ孜々勉勵セルモノトシテ閣下ニ薦奉スル実ニ喜悅ニ堪ヘズ謹言

札幌農学校代弁教頭デ、ピー、ペンハルロー

〔道〇三八三一〕

三八七 語学教師として外国人一名雇入に付申入

二ノ十九号

東京書記官

札幌書記官

当地農学校予科生徒教師之義是迄東京大学卒業生其他御採用相成候得共語学ニ至リテハ内国人ヲ以テ外国語ヲ教授候義ニ付到底純然之語音ヲ学ヒ得ル能ハス夫カ為メ専門科入学ニ臨ミ差支候者も有之依而語学教師トシテ外国人一名雇入度旨長官殿御出函之節調所広丈ヨリ稟議之上許可相成候ニ付東京横浜在留之外国人中ニ就キ相当之者御撰挙有之度尤英語学教授ニ而已従事為致候ニ付年限者凡ニ二ケ年其俸給學術等者先年御雇相成候米人コルウエン氏ト粗同様之者ノ御見込ヲ以御雇入方可然御取計有之度此段申進候也

十三年二月四日

追伸目下授業差支居候ニ付至急撈取候様致度此段申添候也

〔農〇九三〕

三八八 内国勸業博覧会出品目録上申

校長印(調所)

農藝園印(森)印(吉田)印(大里)

来ル明治十四年内国勸業博覧会出品別紙調書之通差出度候ニ付此段上申候也

十三年二月六日

〔別紙〕

明治十四年第二回勸業博覧会出品概目録

母アシヤ種米國マサチユセツツ州産

一 牝牛 宍頭 一歳六ヶ月

此代金百七十円 但系統書添ル

同 同

一 牡牛 宍頭 一歳六ヶ月

此代金二百円 但同断

一 ターイル 三十本 但組立絵図面添

大拾本此代二十銭内経三寸三分長一尺一寸
小拾本此代十五銭内経二寸六分長一尺一寸
錦五本此代五銭終手五本此代十二銭五厘

此代金合五拾貳銭五厘

一 玉葱 三拾斤

三種 黄色タンバルス、早熟紅球、エザルフィルド大形紅色、

此代金七拾五銭但宍斤式錢五厘ノ割但百斤以上ハ二銭ノ割

一 同種 六升 但不売

同三種

* 一 ハーン雛形 宍通

此出来代金五拾円

一 金四拾円 牛二頭入梓出来代

一 金百貳拾円 牛二頭小樽より東京迄往復運賃

一 金三拾八円三拾貳銭五厘 牛二頭札幌より東京迄途中飼料及同

所滞在中ノ分共

一 金貳円

一 金貳円七拾銭

葱井ターイル入函貳ツ出来代
同函貳ツ此石式石札幌より東京迄運
送賃百石百三十五円ノ割

一 金貳拾円

一 金貳円七拾銭

小樽及東京解賃并運送賃共大略見込
ハーン雛形入函者ツ此石式石東京迄
ノ運賃則同断

合金六百四拾七円

* ハーン雛形三十分ノ一 横三尺三寸余 縦二寸五分
竪三尺六寸余 牛馬室ケ所

牛室ケ所合六十三ヶ所内 牛四十六馬拾頭分
牛馬室七ヶ所

〔農〇九九〕

三八九 ブルックス雇継決定に付代人雇入中止の申入

第四百拾五号

在米我公使館吉田代理公使へ御書状案

当使札幌農学校教師ウキリヤム、ヒー、ブルックス雇満期解約ニ付同人代リトシテ教師雇入方ノ義客歳十一月十三日付第貳千三百八拾六号ヲ以及御依頼置候其後屢電報往復ノ末遂ニクラーク人撰ノ教師雇入ノ事ニ御運相成候折柄ブルックス雇継ノ義更ニ議決致候ニ付クラーク人撰ノ教師ハ御断相成度電報御依頼致候右ハ最初申進候通ブ

ブルックスハ解約帰国ノ積ニ而既ニ任所出發当地迄到着之後更ニ同人

江請願ノ次第有之候ニ依リ雇継ノ事ニ決定致候訳ニ有之該件ニ付テハ彼是御手数數ヲ煩シ深謝ノ至ニ候尤クラーク人撰一条ニ付同人存意等御見聞ノ次第モ有之候ハ、無御伏藏御申越成候様致度前件電信而已ニ而者事情貫通致兼候義も有之候ニ付御謝詞旁為念此段申進候也

明治十三年二月廿三日

在米國華盛頓臨時代理公使吉田次郎殿

開拓長官黒田清隆

〔道〇四四二二〕

三九〇 解剖学生理学数学等の用具購入の件

廿五号写シ

千八百八十年三月四日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

解剖学性理学及数学課等ニ於テ要用ノ品具目錄ヲ進呈仕候右ハ在京或ハ横浜ノ商社ヨリ急キ御買入相成度但シ其概算価額ハ七拾円程ニ付本年 明治十二年三月 度予備金ノ内ヨリ御仕払相成候様仕度此段謹テ薦告仕候敬具

札幌農学校教頭心得デー、ビー、ペンハロー

〔別紙〕

比較解剖学及性理課用解剖器械

屍体解剖器

内

スカルペル(大サ分類セシモノ)

テナキユラム

カアテレージナイフ

デセクテンクフオーセツプ

ブローパイプ

スツレイトスシツソル

カアブド、スシツソル

グルーブド、ダイレクトル

マレットウキスチセル

ブロープ

ボーン、フオーセツプ

チエン及フーク

其他

アナトミカル、インジエクテングシイリンジウキスヴァ

ルヴス

フハイン、インジエクテング、シイリンジ

スカルペル(中形十大形十)

寄附

デセリテング、フオーセツプ

数学課用紙

復式簿記用紙 大判 但シ上等

元帳用ノ界紙

シヨルナル用界紙

札幌農学校教頭心得デイ、ピイ、ペンハロー

〔農〇九三〕

三九一 米国へ書籍及び器械類注文の件

廿八号

千八百八十年三月五日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

米国ヨリ購求ノ書籍及器械類注文書御承諾ヲ得ンタメ備貴覽候各物

品概算之価額ハ左ノ如シ

貳百弗 書籍

七十五弗 新誌及雜報郵税共

貳百弗 顕微鏡ノスライド

貳百七十弗 土木家用ノ測量器

右品具購求ノ儀ハ来七月以後ニ係ル年度定額金調べ中ニ予備致置候

儀ニ御座候

札幌農学校教頭心得デー、ビー、ペンハロー敬具

〔別紙一〕

写シ 千八百八十年三月四日日本札幌

ジェー、ビー、リピンコット商社御中

札幌農学校ニ代テ爰ニ書籍注文書差進候条全ク水書ヲ防クヘキ確タル函詰ニナシ貴下ノ御手配次第速カニ札幌ヘ送出被致度此書写シ一綴在華盛頓府日本公使ニモ送致可相成筈ニ付仕出等ハ同公使ヘ差出決算可相成候也

札幌農学校教頭心得デー、ビー、ペンハロー

写シ 書籍目録

出版人

ニツコルス、インツロダクシヨン、ツー、バイラロジ

十九部 アプル

ダウキス、ランドマーク、ラフ、ゼネラル、ヒストリー

十九部 ポット

カツタス、ズーロジカル、チャート

一 揃 リツプ

ニツコルス、マンナル、ラフ、ズーロジイ

一部 アプル

ハキスレー、ゼ、ラージフヒツシ

一部 同

モーレー、インギリスマン、ラフ、レトルス

一部 同

(バムス、ヒューム、ギツボン、ゴールドスミツ、ジョンソン、
其他十六冊)

ホルメス、ボーム、ハウスホールド、イデ、クロ、
一部 エツチ、ラ
一 揃 ハー

ウキルラリラルス、ボンクス、ラフ、スリイ、センチュリース

ハウスホールド、イデ、クロ

ブームス、ボーム、ランスダラン、イデ、
一部 リツプ

ポーブ、ボームス、ランスダラン、イデ、
一部 リツプ

スコツトス、ボームス、ランスダラン、イデ、
一部 同

ミットンス、ボームス、ランスダラン、イデ、
一部 同

ウラルツウオルス、ボームス、ランスダラン、イデ、
一部 同

ムーレス、ボームス、ランスダラン、イデ、
一部 同

ビウテース、ラフ、シエークスベヤ、イデ、
一部 同

レジンデー、ボラズ、イデ、
一部 同

ロビンソン、クルソー、カアレトンス、イデ、
一部 同

アラビヤン、ナイツ、カアレトンス、イデ、
一部 同

ドン、クニクスラート、カアレトンス、イデ、
一部 同

スウキス、フアミリー、ロビンソン、カアレトンス、イデ、
一部 同

セウエル、エンド、ヨンジ

一部 同

ヨーロピン、ヒスト、イン、セレクションス 二冊

一部 アー

ウキリヤムス、ブラクテース、ラフ、ヴェテリナリーメデシン

一部 ウード

ロベルツス、ハンドブック、ラフ、メデシン

一部 エル井ビ

トッドハンタルス、メカニツクス、フオールベジナルス

二十部

サンフボルズ、マナ、ラフ、ジラグラフヒー、エンドツラベル、

アジャー、ヨーロツパー、ノースアメリカー、

グリインス、リーデング、フロム、インギリス、ヒストリー

一部 ハアバル

シモンツス、レゾールシス、ラフ、ゼジイ、

アニマル、パラシツス、エンド、メスメーツ

フハイブ、センセス、ラフ、マン

アニマル、ロコモーション、

アニマル、メカニスム、

ダント、(英国ブース、ノ反訳)

マイクローケミストリー、ラフ、ポイズンズ

テ、ジイ、ウラルンバイ、

一部

ベルケバイス、クリープトマミツク、ボタニー 一部

クーケス、ブリテシ、フオンジ 一部

クーケス、マイクロスコピツク、フオンジ 一部

ソラー、フヒージクス、ロケーヤー、 一部

スタデー、イン、スペクトム、アナライシス、ロケーヤー 一部

フオンジ、ゼアー、ネーチユール、インフルーエンス エンド

ニーセス、エム、シイ、クーケ 一部

ラン、フヘルメンテーションズビー、シユツエンベルガー、 一部

ハラ、ツ、ウラルク、ウキス、ゼ、マイクロスコツプ、

エル、エス、ビーブ、フヒフス、イデ、 一部

マイクロスコツプ、カーベントル 一部

プロトブレースム、ラル、マリランド、ライフ

エル、エス、ビール、 一部

マイクロスコツプ、イン、メデシン、

エル、エス、ビール 一部

ゼ、マイクロスコツプ、エンド、マイクロスコピツク

テクノロジイ、フレ、 一部

ダビス、ソルベイング 二十部

ダビス、ゼゲンドル、ウキス、ツリゴノメトリー エンド、
エーブルス、インクルーデッド

以上

札幌農学校教頭心得デー、ビー、ベンハロー

〔別紙二〕

写シ 千八百八十年三月五日日本札幌

合衆国ボストン府華盛頓街第二百八十三番館

エー、ウキルリアム、商社御中

千八百八十年七月一日ヨリ一ヶ年間左ノ新誌及雜報類御差送り有之

度札幌農学校ニ代テ余ヨリ更ニ及御依頼候

エン、ズイ、グラフヒツク

スサエンテフヒツク、アメリカン、ウキス、ソツブレメント

アメリカン、ジヨルナル、ラフ、スサイエンス、エンド、アート

ライテラリー、ウワルド

ハーバス、ウキークレー

アメリカン、アグリコルチュリスト

ラント、エンド、ホーム

コントリ、ジエントルマン

ゼ、ウキテリナリヤン(インギリス)

ゼ、ガードナルス、モンズレー、エンド、ホルテカルチュリスト
セント、ニツコラス

マクリブナルス、モンズレー

イルロストレーテッド、クリステアン、ウキークレー

イルロストレーテッド、ロンドン、ニュース

左ノ如ク記載ヲ請フ

日本北海道札幌農学校

此書写シ一葉在華盛頓府日本公使ヘモ被差送候管ニ付諸仕私等ハ同
公使ニ於テ決算可相成候也

札幌農学校教頭心得デー、ビー、ベンハロー

〔別紙三〕

写 千八百八十年二月廿七日日本札幌

抹州ボストン府デウオンシヤイル街百三十一番館

チャールス、ストツドル貴下

植物学比較解剖学理学ノ説明ニ須要ナル物件目錄ヲ此書ニ添ヘ差進
セハ顕微鏡ノ見本ニ於ル如ク適宜ノ処置ヲ施サレ購求アランヲ希望
ス其装置ハドクトルヘインツノ式ヲ貴重ス尚スライドハ堅牢ナル適
良ノ箱ニ納メ毀損セサル如クセラレ毎箱トモ平易明亮ノ文字ヲ記載
シ植物解剖理学ノ物件トモ各入記ヲ附シ其各物件ヲ混淆セシメサル

タメ数箱ヲ調整アリテ充分ニ之ヲ納メラレンヲ欲ス

此注文品ハ可成丈速ニ調整セラレ在華盛頓府日本公使ノ指揮ニ從ヒ
札幌農学校ヘ悉皆送致セラルヘシ尚此注文書ノ写ヲ同公使ヘ送レハ
計算書ヲ同氏ヘ出サルヘシ敬具

札幌農学校教頭心得デイ、ビイ、ペンハルロウ手記

写 見本等ノ目錄

- 一 玻璃製スライド (縁ヲ琢磨セルモノ) 四ドローゼン
- 一 同蓋 (完備) 六ドローゼン
- 一 モルレル、タイプン、プレート 一
- 一 ジアトームス
- 一 スミツス氏学科用品
- 一 コロ、フキール 一 アレウローン
- 一 蕃薯玉蜀黍小麦筋根製ノ糊
- 一 ラファイテス、イン、シツ 一 サイトリス、イン、シツ
- 一 木綿 亜麻 麻 石炭
- 一 ストマタ」ヲ示ス、エビデミカル、チツシユウ
- 一 水草ノ気管ヲ示ス截断部
- 一 エビデミカル、ヘイル 五箇ノ最タル形状
- 一 層生幹樹
- 一 嫩弱樹幹ノ横断并ニ直截セル完備ノ部

一 カンビユームライブル、パレンチマ及ヒ「コルク」ヲ示ス木皮ノ截断部

一 幼樹幹ノ截断部 脈管ノ初起及ヒ其集合部ノ毀損ヲ示セルモノ

一 樹根ノ截断部 横断并ニ直截セルモノニシテ「ウオットキヤツプ、メリステム」及ヒ其他部ヲ示スモノ

一 嫩芽ノ截断部 ポンクチュム、ウエンテーション部及ヒ「パーレント、ステム」ニ符合スル其關係ヲ示スモノ

一 葉茎ト樹幹ノ截断部 木幹ノ本質ト脈管ノ連合ヲ示スモノ

一 木葉直截ノ部

一 木理及ヒ条痕ヲ顯ス木質ノ小孔截断部

一 液汁循環ノ織緯ヲ截断セル部

一 ピニス状ノ葉ヲ横断セル部

一 幼雄藥ノ截断部 將ニ雌藥ニ歸セントスル花粉ヲ示スモノ

一 キュシユル、ペポ、ビ、スキユス、ミニユリユス・モスカトス、チユリユーム・インダイブス・コニフエラエ

心生樹

一 樹幹ノ截断部 横断并ニ直截セルモノ

一 連合脈管ノ截断部 横断并ニ直截セルモノ

一 樹根ノ截断部 横断并ニ直截セルモノ

一 殻類ノ鑲状管截断部

蕨類

一 サイストブレリス」ノ結実部

- 一 スポランチア 二三ノ異種
 一 フロサルリユス」ノ截断部 アウテンチア及ヒ「アルチニコリア」ヲ示スモノ
 一 蘆茅類
 一 スポランチア及フリー、スホールス
 一 ヘパチシアル
 一 エム、ポリモルフア」ノ「アウセンヂアル、レセプテークル」ノ截断部
 一 エム、ポリモルフア」ノ「スポールス及エラートルス
 一 エム、ポリモルフア」ノ「ラヂカル、ヘールス
 一 蘚苔類
 一 「サリユス」ノ全体截断部 各種ノ墨層ヲ示スモノ
 一 「アPOSEシユーム」ノ截断部 整備セル結実部ヲ示スモノ
 一 菌ノ再生ヲ示ス「スライド一揃 各種模造ノ見本
 一 隠藥花類再生ノ最タル形状ヲ示ス「スライド一揃
 一 トリユラ 一 デストマ
 一 アカリユス、スカビシ 一 サイコロツプス (螟蛉)
 一 マイコロスボロン 一 サイコロツプス (卵)
 一 アカリユス、ドメスチキユス 一 アクニオン
 一 ピユレツキス、ベネテレンス 一 ペヂキユリユス、カルパリス
 一 カルヂアシアル
 一 サイスチセルキユス、セルリユロシユス
 一 トリチナ、スピラリス 一 エチヌーウオキユス (狗)
 一 トリチナ、スピラリス (包括セルモノ)
 一 タエニア (頭)
 一 カエニユリユス、セレブラリス
 一 クレカリネアル
 一 コラル (横断セルモノ) 一 スポンジ (シリシオウス)
 一 コラル (直截セルモノ) 一 トルベルラリア
 一 スポンジ (石灰質ノ)
 一 シエル、ラジヲリアン (墜石)
 一 フオラニミフエル (横断セルモノ)
 一 フオテニミフエル
 一 水蛭ノ齒及筋
 一 牡蠣殻ノ横断セルモノ
 一 真珠母ノ截断部
 一 油螺ノ薑擦ニ似タル機関
 一 烏賊甲ノ横断部
 一 蟹眼直截ノ部
 一 昆虫ノ眼直截部
 一 骨類

— 人骨	直截并ニ横断部	— 神經帶横断セルモノ
— 狗骨	同断	— 動脈
— 鳥骨	同断	— 横断セルモノ
— 魚骨	横断セルモノ	— 馬皮
— 爬地属ノ骨	同断	— 直截セルモノ
— 齒類		— 伝染病皮直截ノモノ
— 人齒	直截セルモノ	— 毛根(人ノ)
— 鯨齒	同断	— 臍核(人ノ)直截セルモノ
— 狗齒	同断	— エピテリニウム
— 人体軟骨		— シリエーテット
— 初胎軟骨	— 成人軟骨	— コロムナル
— 軟骨及堅骨	— 黄(角製)	— ペーブメント
— 連続スヘキ組織		— 蹄
— 白網膜ノ組織	— 黄色彈力アル網膜ノ組織	— 横断セルモノ
— アレヲラルノ組織	— 脂管アル「アレヲラ」	— 直截セルモノ
— 筋肉ノ組織		— 血ノ極微分子
— 剝離スヘキモノ	— 剝離セサルモノ	— 肝臟
— 臍リテ衰廢セルモノ		— 肝臟
— 神經ノ組織		— 肝臟ノ下面耳孕Cニ彩色ヲ施セル部
— 神經管	— 筋根上ノ腫物	— 胃腑 腹囊

一 馬 一 牡牛

腸

一 直截セルモノ 一 ウキルリ

スベルマトゾーン

一 蟾蜍 一 鼠 一 羊

一 馬

オウキユーム

一 狗 一 羊或ハ牝牛

札幌農学校教頭心得デ、ビイ、ペンハルロウ手記

〔別紙四〕

千八百八十年三月五日日本札幌

在マサチユセツス州ボストン府プロヴキンスコート街九番館

バツフ、ベルガー商社御中

土木家及測量家用「ツランシット」全部確實ナル製作ノモノ御送り有之度札幌農学校ニ代テ及御依頼候但シ其平面環輪ノ度盛ハ純銀ニシテ三十秒迄度盛ヲ有シ堅ノ全輪モ純銀「ミニユート」ノ度盛ヲ常ヒ斜傾ノ螺旋ト毫厘ノ度盛ヘ日光除ケ擦玻璃トノ附属アルモノニシテ被袋アルヲ要ス

右器械ハ其使用ノトキ自在ニ動キ且毫モ水害ノナキ組立ナルモノヲ

撰ブ

貴下ノ御都合次第至急札幌ヘ御送出有之度此書ヲ華盛頓府駐劄日本公使ヘモ被差送候答ニ付諸仕私等ハ同公使於テ決算可有之候也

札幌農学校教頭心得デ、ビイ、ペンハロー

〔道〇三八三二〕

三九二 校園用として種馬及び家禽等購入の件

第二十六号

千八百八十年三月五日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

校園ニ備フヘキ種馬一頭家禽若干購求アラシム事ヲ閣下ニ開伸ス右ハ教頭ホウキーラル初発米國ヘ帰國ノ節其購求ヲ委託シタレトモ閣下御了承ノ事故アリシヲ以テ同氏ハ之ヲ果サ、リシハ必ス閣下ニモ御了知ナルヘシ

其節其購入ニ須要ノ金額ハ華盛頓府ニ送致アリテ尚今ニ本使ノ備金トシテ同所ニアルヘシ其金額其節須要トセシハ八百九十弗ナリキ然ト雖トモ現今ニ至リ余カ希望セル如キ種馬ハ二千弗モスヘク加之家禽購入ノ価額ハ百二十五弗ナルヘシ之ヲ合算スレハ惣計二千二百二十五弗ナルヘキ概算ナリ」右購入相成ランニハ教頭クラーク之ヲ担任スヘキヲ確信セハナリ其他上事ヲ委託シ能ハスヘキノ者ヲ了知セサルカ故同氏ニ校園ノタメモルガン種馬一頭ブロンズ吐綬鶏六羽ライ

ト、プラス家鶏六羽白レオルム家鶏六羽ヲ購求セシメラレン事ヲ謹
テ閣下ニ開陳ス敬具

札幌校園監督ウキルリアム、ビイ、ブルークス手記

〔道〇三八三二〕

三九三 貸費生規則〔三月カ〕

④（調所）

一 貸費生ハ官費生ヲ合セテ五十名ヲ定限トシ学力年齢等本本科生
ルニ適スルモノニ非サレハ貸費生タルヲ得ス

一 貸与ノ金額ハ入学ノ日ヨリ月々九円ヲ規トシ其衣服筆紙等ノ現
品ヲ以テ給シ或ハ其価金ヲ以テスル等ノコトハ本校ノ便宜ニ因ル
可シ

一 貸費ハ卒業ノ後月々九円ツ、返納スヘキ者トス然レトモ開拓使
員トスルカ又ハ北海道中ニ在テ農業ヲ営ミ本使ニ於テ成功ヲ期ス
可キモノト認ムルトキハ其金額或ハ幾分ノ償還ヲ免ス可シ
但シ滿五年奉職ノ者ハ貸費償還ニ及ハス

一 学業進歩セサルカ品行修マラサル等ヨリ退学セシムル者若クハ
契約書ニ誓ヘル期限前不得已事故アツテ自ラ乞テ退校スル者ハ在
校中ノ貸費三ヶ月間ニ其金額ヲ返納ス可シ

一 授業料ハ月々金壹円トス

私儀今般札幌農学校貸費生トシテ入学被差許候ニ付テハ御規則堅ク
相守可申且卒業後ヨリ月々金「一九」円宛月賦ヲ以テ貸与ノ金額無相
違返納可仕若シ又國法或ハ校則ヲ犯シ或ハ決鈍ニシテ学才ニ乏キノ
故ヲ以テ退校被申付候節ハ在校中ノ貸費速ニ会計係へ返納可仕事

保証人契約書

生徒誰某義札幌農学校へ入学御差許相成候上ハ私儀其保証人ト相成
同人ノ開拓使ニ誓ヒタル條款ハ之ヲ誠実履行為致可申責ニ任シ將又
同人ヨリ金員上納可致モノ有之滯滞候節ハ速ニ私ヨリ其負債金額ヲ
本校会計係ニ上納可仕段契約仕候仍テ如件

年 月 日

姓 名

〔注一〕 本件は原案であるが、訂正されたとおりに決定
されたと思われる。なお入校証書案等は四一七
を参照。

〔注二〕 明治一四年四月一日より一二円に改められた。

〔農一〇二〕

三九四 校園用器械類購入の申入

第三十九号

千八百八十年四月十四日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

別紙目録ノ校園用ノ器械類ヲ御許諾ノ上米國ヘ注文セントスルヲ此

書ヲ開陳ス右允諾アラシニハ桑港エム、シー、ハウレイ商会ヘ遣スヘ

キ注文書ヲ認メンヲ欲セハ其節同時桑港在留日本領事柳谷謙太郎氏

ヘモ此注文品ノ目録ヲ差送度左スレハ同氏ハ其政府ヨリ右仕払ノ委

托ヲ受クヘキヲ以テ余カ注文書ニ詳記セル品物目録ニ照シ仕払ラハ

ルヘシ如此手順トナセハ過チ少ナキノミナラス事最モ迅速ニ調フヘ

シ

此器械類概算ノ価額ハ一千二百八十八弗ニシテ此高ハ三ケ年来校園

ノ贏余金ヲ以テ容易ク仕払フヲ得ヘシ敬具

札幌校園監督ウキルリアム、ビー、ブルークス

〔別紙〕

校園ニ須要ナル器械類

一 ボツケイスモーブル及ヒセルフレイキリーブル

一具 価 二百四十弗

一 スライド、ティフル、ウード、サウイング、マシイン

一具 価 七拾五弗

一 スキユットレルス、鉄軸ルンニングギール

二具 価 三百廿弗

一 チヤチルロンス弾機天秤

二具 価 二弗

但シ三十磅ヨリ半磅迄ヲ秤ル第五号ノ品

一 フェールバンクス、大乾草秤 一具 価 二百五十弗

一 第二号園鋏 十八挺 価 十四弗

一 コルリン及ヒ商会ノ壮丁斧 十二挺 価 十五弗

一 カットル、カルツ 廿四 価 十弗

一 幅四英寸長四十英尺ノゴム帶 価 五弗

一 幅三英寸長廿英尺鍍銀セル鉄管 価 五弗

一 ブリツキシス計糖器 三個 価 六弗

一 チケノルス改良用手乾草圧搾器 一具 価 百四十四弗

一 アルレン蕃薯軋起鋤 一挺 価 拾二弗

一 〃 改良農 一具 価 六十五弗

一 但シ最良鋼鉄板

一 〃 農磨 価 廿五弗

一 ウキクトル用手磚製器 一具 価 八十五弗

一 第二号アーメス円頭鋸 十二挺 価 十五弗

一 英式図引具 一揃

シ 此器具ノ価額ヲ辨解セサレトモ他ノ品物ノ直引ヨリ多カルヘ

総費額一千二百八十八弗

〔道〇三八三二〕

三九五 校園用器械購入に付回答

第四拾四号

本月十四日付ヲ以テ校園ニ須要ナル器械購入致度旨御申出了承候へ共概算代価一千貳百八拾八弗ヲ三ヶ年来同園ノ贏余金ヲ以テ仕払フ訳ニハ至リ兼候依テ来十三年度予算ヲ以テ購入候義ハ差支無之候此段申進候也

明治十三年四月十九日

開拓大書記官調所広丈

ウキリアムブルークス貴下

〔道〇三八三一〕

三九六 貸費生招募に付申入

五ノ三十二号

東京三等出仕

書記官

札幌書記官

当地農学校貸費生徒招募之義義ニ長官殿御出函之節調所大書記官ヨリ同済相成居候処本年七月於其地十余名招募候ニ付別紙第壹号ハ予テ新聞紙ヲ以テ広告候様御取計相成度且志願者ノ内校則等詳細承知致度旨申出候ハ、別紙第二号第三号御示シ相成度尤入学試験之義ハ該校教頭心得ペンハロー氏満期離任ニテ出京候ニ付其節為取扱候答

ニ付右ニ御了承相成度此段及御掛合候也

明治十三年五月四日

〔別紙〕

〔朱書〕
「第一号」

広 告 案

今般札幌農学校ニ於テ本科貸費生十余名招募候ニ付志願ノ者ハ願書ニ学業履歴書ヲ添へ来ル六月三十日限東京芝山内本使出張所へ願出ツベシ

但委細ノ義ハ同所ニテ承合スベシ

検査項目

- 第一 年齢十六年以上ノモノ
- 第二 身体壯健ニシテ種痘或ハ天然痘ノ済ミタルモノ
- 第三 英語（読書、説話及作文、翻訳等）
- 第四 地理書（東西両半球）
- 第五 万国史（初科）
- 第六 算学（分数、比例、ヨリ簡易方程式ニ至ル）
- 第七 漢学（日本外史、十八史略）

願書式

私儀札幌農学校貸費生志願ニ付御検査ノ上入校御差許被下度此段奉願候也

府(県)區郡町村番地士族平民子弟
宿所府下何区町何番地何ノ誰方

月 姓 名 印

開拓使出張所御中

附箋

「第三号ハ農学校本来ノ定則ニ候処今回初テ貸費生ヲ召募スルニ付更ニ第二号ヲ編輯候間若シ二号ト三号ト相矛盾セル処アラバ渾テ式号ニ準拠候義ト御心得有之度候也」

〔朱書〕
「第三号」貸費生規則(取裁録ニアリ)

〔朱書〕
「但本人及証人ノ誓書ヲ校長宛トシ末ニ府県長官ノ奥書ヲ添ヘ」

書ヲ添ヘ」

〔朱書〕
「第三号」第二年報百二十九葉ヨリ百四十四葉マテヲ摘録ス

〔農〇九三〕

三九七 地質学等教授の外国人雇入の申入

第五拾五号

千八百八十年五月四日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

御口頭御頼談之旨ニ従ひ当学期後本草学科教授之職を兼務可致哉否教授フルークスニ尋問致候処現今之職ニ従事候得者自己并ニ本使之御都合ニ取ても本草学之教授者致兼候趣申聞候
教授フルークス斯く此事業ニ関渉不仕上者外国教員者只三名ニ減少

致シ然る時者教員悉く余暇なき故地質学及び辨舌之如き学科者廃除せざる越得ざるニ至り候得者之ニ御着意有之度候本草学者須要之学科ニ而貴重なる学校之体裁越維持致候ニ者此教授を特殊適任之者ニ教授為致度又地質学科者殊ニ須要之学科ニも候得者目今之適任者へ教授為致候より尚一層精密之方法ヲ以教授為致度はヲ以本草学及び地質学之教授ヲ兼ネ其地当校ニ而須要なる学科之教授越補佐可為致適任之外国人一名御雇入相成度謹而此段開申候敬具

デイ、ビー、ペンハルロー手記

〔農一〇一〕

三九八 山田義容外四名処分案に関する伺

農第六十式号

長尾布山調

校長(調所)

農学校掛(加藤(官) 時(印)(長尾)
(井川) (いちょう) (印)(加藤)

山田義容外四名処分之義ニ付教頭心得ペンハローより五月三日付ヲ以テ上申候書面御下付相成於是私共評議異見ノ次第左ニ陳述仕候
山田外四名之者放蕩ニ涉リ校則ヲ犯ン候者勿論警察署より永井於菟彦連累ヲ以テ数度推鞠ヲ受ケ過失暴頭致候段有之且又四年生徒ヨリ種々ト申立候儀も有之右等ニ而篤ト内外之体面相考熟議ニ及候処

教頭心得申立ノ如ク而已ニ而者苟且姑息ニ流レ却テ校中ノ沸議ヲ醸シ候様ニ可立到ト存候且此度之儀者大ニ本校之名譽ト向來之盛衰トニ關係有之ニ付必至ト果決ノ御処分ヲ以テ惡習之根帶ヲ絶チ校規振張校中肅整ニ帰シ候様致度尤五名之者共ハ全ク校則ヲ犯シ不行跡及候廉ニ而別段輕重ヲ置キ論議可致様無之就而者右一同退校被申付可然ト存候此段私共決議ヲ以テ相伺候也

十三年五月五日

付 永井於冤彦外五名の処分案

第五拾九号

千八百八十年五月三日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

生徒ニ犯罪者アリシヲ教員等伝承ス如此ハ当校ノ榮名ヲ汚シ其害ヲ他ノ生徒ニ波及シ忽チ校則ヲ破ルヘキヲ以テケ様ノ場合ニ適セル罰則ヲ左ニ掲載シテ參考ニ供ス允諾アランヲ請フ

第一 永井氏ハ偷物ト放蕩ノ廉ヲ以テ正規ニ照シ該校ヲ放逐スヘキ事

第二 放蕩ト平素不行跡ニ隨從セル山田氏ヲハ該校官員ト生徒ノ目前ニテ嚴密ニ譴責シ且ツ教頭ヨリ特殊ノ許可アラサレハ彼ヲシテ当校在学中校地外ニ出ルヲ制禁スル事

小林氏ト伊藤^{英太}氏^郎ハ該校官員ト生徒ノ目前ニテ嚴シク譴責シテ教頭ノ許可ナケレハ一ヶ月間校地外ニ出ルヲ禁止シ千八百八十一年一月一日マテ試験中ニ置カレ若シ此時限中不正ノ所業アラバ放逐スル歟或ハ他ノ相当ナル罰則ヲ以テ責罰スヘキ事

毛受氏ト伊藤^{經太}氏^郎ハ該校官員ト生徒ノ目前ニテ嚴密ニ譴責シ千八百八十一年春時学期四月ノ休業マテハ総テ該校トノ関涉ヲ中絶セシメ此時限終ルノ後身元請人ノ調印セル行狀方正ノ証狀ヲ出サシメ斯テ昇級セント欲スル等級ニテ学フ学科ノ試験ヲ受ケテ之ヲ徑道スルヲ要セシメラレン事ヲ勸奨ス

前件參考ニ呈シ候条速ニ御允諾アラン事ヲ請求ス敬具

札幌農校教頭心得デイ、ビイ、ヘンハルロー手記

〔農一〇一〕

三九九 バチエラー、オブ、サイエンス相當の学位に関する回

答

官学第百二号

英語之「パテロール、オブ、サイエンス」ハ当省於テ何等之学位ニ相當候哉云々第千〇六十八号去月三十日附ヲ以御問合之趣致承了候右ハ現今東京理学部中理学士ナル一学位之設有之候得共右ハ大学予備門^{*}四ヶ年ノ課程ヲ卒リ而シテ本部ニ入り更ニ四ヶ年之課程ヲ履ミ一学

科ヲ修メ考試ヲ完フセシ者ニ授与候儀ニテ全然彼ニ準拠シテ其等位ヲ相定候儀ニ無之候ニ付彼「バチエロル、オフ、サイエンス」ハ我何等之学位ニ相当セル義御報難致殊ニ彼「バチエロル、オフ、サイエンス」ノ如キ其名ハ同シキモ之ヲ授与スル学校之品位優劣ニ由リテ甚シキ差等有之ニ付旁以是彼相当之義御答難致候条右宜ク御諒知有之度此段及御回報候也

明治十三年五月六日 官立学務局長文部少書記官浜尾新

開拓使書記官御中

* 本庁へ御回答按ハ理學師ノ英訳相分リ次第取調可申候也

㊦ (有蘭)

〔道〇四四二六〕

四〇〇 舍則制定の儀伺

農第九十九号

校長㊦(調所)

農学校㊦(加藤)㊦(官崎)㊦(長尾)
㊦(いもち)㊦(井川)㊦(加藤)

本校舎則別冊之通相定可然哉此段相伺候也

十三年五月十七日

〔別紙〕

舍則

第一条

一 校中諸規則ハ勿論臨時諸達ノ旨趣ヲ遵奉シ校中官員ノ命ニ背ク可ラス

第二条

一 校中ニ於テ疾走シ高声等総テ喧嘈ノ挙動ヲナスヘカラス

第三条

一 外来人ハ予科生徒タリトモ私室ニ入ル可ラス消燈後ハ他人ノ室ニ入ル可カラス

第四条

一 帰校ノ時刻ハ午後八時ニ過ク可ラス事故アツテ帰校ノ期ニ後ル、者ハ其前校長宛願出可シ

但校員ノ方ニ到ルモノハ前以テ当直ニ屈置キ帰校ノ節該員ノ証書ヲ差出ス可シ唯午後十時ヲ過クルヲ得ス

第五条

一 室内ヘ酒食ヲ入ル可カラス

第六条

一 臥床時間雜話等ヲナシ他人ノ眠ヲ妨クベカラズ

第七条

一 浴湯喫飯消燈等渾テ定時限ニ從フ可シ

第八条

一 官物及ヒ給貨品ヲ破毀遺失スル者ハ之レヲ償ハシム可シ
但事情ニ因リ免スコトモアルベシ

第九条

一 凡犯罪ト認ルトキハ輕重ニ因リ相当ノ罰ヲ科ス可シ

〔農一〇一〕

四〇一 永井於菟彦外五名退校の旨上申

地第廿九号

札幌農学校生徒退校之儀上申

札幌農学校官費生徒

永井於菟彦 山田 義容

伊藤英太郎 伊藤鏗太郎

毛受駒次郎 小林秀太郎

右永井於菟彦儀ハ本年二月中農学校園事務所江忍入り官金盜取リ同
四月三日其旨自首ニ付退校ノ上警察署江引渡シ山田義容外四人ハ校
則ヲ犯シ品行ヲ紊シ自然校中ノ風儀ニモ関涉候ニ付本月十五日退校
申付候此段上申候也

明治十三年五月二十日

開拓大書記官調所広丈

開拓長官黒田清隆殿

〔農〇九三〕

四〇二 六角砲貸与の件回答

第三百四十八号

農学校

一 六角砲

老門

但付属品共

屯田事務局印

右ハ貴校生徒演習ノ為御貸渡可申旨了承就而ハ来ル廿八日午前十時
銃器庫ニ於テ御引渡可致尤梨杖ハ予備モ無之候ニ付難応御需候間御
新調相成候様有之度此段及御回答候也

十三年五月廿五日

〔農〇九二〕

四〇三 本草学及び地質学教師採用に付掛合

五ノ九拾六号

東京三等出仕

書記官

札幌書記官(印)鈴木

当地農学校教頭心得ベンハロー当学期後満期解任ニ付テハ本草学及
地質学教師相欠ケ候処右ハ農学上緊要ノ学科ニ付右両科ヲ兼テ教授
候者尙名雇入度候処成ル可クハ内国人中ヨリ右ニ適任之者採用致度
見込ニ付長官殿へ稟議之末来ル九月初旬同校学科起業之節迄ニ赴任

相成候様御取計有之度若シ吾人ニテ兩科ヲ兼テ候者無之候ハ、本草
地質各科専名ツ、ニ相成候而も宜敷尤モ從來本邦ニテ称シ来リシ本
草家ノ類ニテハ授業上差支有之候間植物性理上ニ練達セル者ヲ於其
地普ク御尋相成度到底内国人ニ適応ノ者無之節ハ不得止外國人雇入
之義伺出之都合モ有之候条其有無成丈至急御回答有之度此段及御懸
合候也

十三年五月廿七日

農業叢談第貳号発兌候ニ付拾部御送付候間内務省へ納本等先規之
通可然御取計相成度此段申添候也

* 農業叢談第二号ハ公文係へ受取候配布方ハ例ノ通取計候
也 (印) (足立)

〔道〇四四三三〕

四〇四 ペンハロー解雇後の化学教授に付申入

第七拾八号

千八百八十年六月十二日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

物理及ヒ現術化学科ニ於テ余カ後任ノ教官トナルベキ者撰定ノ義ニ
付謹テ二三件ノ賢断ヲ仰カントス閣下曩ニ口頭ニテ報答アリシニハ
宮崎氏ヲ当科ノ主任者トシ工藤氏ヲシテ補助タラシムヘキ旨ナリキ

是レ農校ノ裨益ヲ計ルノ熱望ヨリ此書ヲ呈スル所以ナリ

工藤氏ヲシテ化学科ノ主任トシ其補助ニハ適応ノ者ヲ附屬セシメラ
レンコトヲ謹テ勧告ス其故左ノ如シ

第一 六ヶ年間聯邦ニ在テ學課ヲ經了シ得タル訓練ト特ニ高等化学
術ニ從事セシト一般ノ學業及ヒ見聞ニ好機會ヲ得タルトノ故ヲ以
テ二人中工藤氏ハ宮崎氏ヨリ遙カニ前述ノ位置ニ最適スベシ

第二 工藤氏ハ英語ニ通シ其思想ヲ述フル容易ニシテ宮崎氏ノ如ク
英語ヲ話スノ困難ナル人ヨリ生徒ヲ教導スルニ最適シ其事項ヲ明
亮ナラシムルヲ得ヘシ

第三 教官ニ切用ナル性質ハ熱執以テ生徒ヲ提進スルノ能力ニ在ル
義ニテ特ニ此一点ノミヲ以テ論スルモ工藤氏ヲ撰挙スルハ他ノ候
補ヲ択フヨリ遙カ賢トスルコトニ御座候

工藤氏ヲ騰用セハ農校ヲ補補スルノ必然ナルハ他ノ教員ト共ニ確信
スル所ナリ故ニ彼ヲシテ其任ニ当ラシムルニ尚高等ノ階級ヲ与ヘン
コト必要ナラバ彼ヲ昇進セシメラレンコト亦タ余ガ謹テ勧奨スル所
ナリ故具

デイ、パイ、ペンハロー手記

〔道〇三八三三〕

四〇五 サマーズ条約書

明治十三年六月十三日即西曆一千八百八十年六月十三日日本開拓大書記官安田定則^{以下第一}ト英國セームスサンマルス氏^{以下第二}ト東京開拓使出張所ニ於テ結約スル條款左ノ如シ

第一条

第一方ハ明治十三年六月十三日ヨリ同十五年六月十二日マテ滿ニケ年間第二方ヲ雇ヒ入レ北海道札幌農學語学教師トス

第二条

第二方ノ給料ハ一ヶ月銀貨百八拾円ト定メ毎月末日ニ請取ヘキ事

第三条

第二方ハ英語学教師ノ職ヲ務メ農學長ノ命ヲ遵守シ農學ノ諸規則及臨時布告ノ公令ニ従フベキ事

第四条

第二方ハ農學ニ於テ定ムル休日ノ外私用ニテ已ラ得ズ業ヲ廢スルトキハ其日數ノ給料ヲ引去ルヘシ若シ農學長ノ許可ヲ乞ハスシテ随意ニ業ヲ廢スルトキハ其日ノ給料ヲ引去ハ勿論事情ニ因テハ期限中ト雖モ此条約ヲ廢スル權ヲ第一方ニ存ス且ツ期限中ハ直接間接ノ別ナク商賈ノ營業其他職務外ノ事ニ關係スベカラス

第五条

双方トモ止ヲ得サル都合ニ因リ解約セントスルトキハ三月前ノ報知ニテ廢約スルヲ得ヘシ第一方ヨリ此約定ヲ廢スルトキハ解約ノ日ヨリ向ニケ月間ノ給料ヲ第二方ニ渡スヘシ第二方ヨリ之ヲ請求スルトキハ現ニ在職日數ノ給料ノミ相払フモノトス

第六条

若シ本約定滿期ノ後尚第二方ヲ雇続カントスルトキハ期限前ニ其事ヲ相示スヘキ事

第七条

赴任及職務上旅行ノ費用ハ總テ開拓使制定ノ外国人旅費規則ニ因テ給与スルモノトス且雇中ハ家具ヲ備ヘサル適宜ノ居室ヲ第二方ニ給スヘシ尤モ第一方ノ都合ニ因リテハ居室ニ代ルニ同上制定ノ規則ヲ以テ宿料ヲ給スルコトアルヘシ

第八条

職務上及其他ニ付建議セントスルトキハ必ラス書面ヲ以テ農學長ヘ申出ヘシ

第九条

第二方ニ於テ雇中過失アルカ又ハ怠惰ナルカ凡テ忠實ニ其職任ヲ務ムルニ害アルヘキ行跡アルカ又ハ此約定書中ノ權ヲ犯ス等ノコトアルニ於テハ第一方ハ直ニ雇ヲ止メ翌日ヨリ給料ヲ給セサルノ權ヲ有ス

但此場合ニ於テハ約定上可得利益ノ權ハナキモノトス

第十条

第二方ハ此約定満期ノ後三月ニ帰國スルトキハ本人ニ限り任所ヨリ東京或ハ横浜迄ノ旅費ハ赴任ノ時ニ同ク夫ヨリ本国迄ハ上等船切手ヲ与フヘト雖トモ第二方ニ於テ該切手ヲ貨幣ニテ請求スルヲ得ス但解約後他ノ（日本国内ノ）雇ニ応スルトキハ三ヶ月以内ト雖モ船切手ハ渡サ、ルモノトス

第十二条

授業シ能ハサルトキハ第一方ハ直ニ之ヲ解約スルノ權アルヘシ而シテ
 第二方ハ其殘期限ニ對シテ本約定書ニ載スル給料或ハ他ノ利益ヲ
 得ル能ハサルモノトス尤モ直ニ帰國スルトキハ赴任所ヨリ東京或ハ
 横浜迄ハ赴任ノ時ニ同ク夫ヨリ本國迄ハ上等船切手ヲ与フヘシ若シ
 期限内死去スルトキハ其遺体及ヒ所有品並ニ當日迄ノ給料ヲ日本ニ
 在ル英國領事又ハ委託人ニ引渡スヘキコト

右条約ヲ遂ル為メ本書三一通ヲ製シ上文記載ノ年月日各其名ヲ手記シ各卷通ヲ所持ス

開拓大書記官安田定則花押

James Summers

「サマーズ」

四〇六 ペンハロー後任としてフレツチエル採用願出の件

長官花押

十三年六月三日

三等出仕①(西村)

八等属有岡義国調印

書記官(印)(安田)(印)(金井)(印)(原)

記録課①(岡本)①(足立)

札第三百五拾貳号

札幌農学校教師後任云々ノ義ニ付札幌へ御照会候按

札幌書記官宛

米國ホストン府チャールス、アール、フレッチェル、ナル者其地農学校教師雇滿期ノ者有之趣ヲ以其後任ニ採用相成度旨申出候義ニ付吉田臨時代理公使より別紙之通申越候処於其庁聘用スヘキ御見込有之哉モ難計ニ付写差進候条委曲右ニテ御了承相成度尤實際ノ都合御申越ノ否ニ依り実地学力探何方等吉田公使ヘ可及依頼と存候此段及照会候也

十三年六月十四日

追伸ヘンハロー氏後ハ宮崎ノ藤岡人ニテ被弁候積之御見込ニ可有之哉難計候得共折角申越之旨モ有之候間本文之通申進候也

〔別紙一〕

当国ボストン府チャーレス、アール、フレツチエルナル者今般費使農
学校教師雇満期ノ者有之趣ヲ以テ其後役ニ採用相成度旨願出候ニ付

未タ貴使ヨリハ右ニ付何等此通達之趣モ無之候得共出願ノ趣ハ追テ此通知可申置旨回答致置候依テ同人ヨリ差出候願書并証書類写差進候尤当館ニ於テハ同人ノ学力其他ニ付別ニ取調候儀ニハ無之候此段得貴意候也

明治十三年四月廿一日

臨時代理公使吉田二郎

開拓長官黒田清隆殿

追テ先般クラーク氏ヨリ差越候書翰中封入有之候砂糖見本先便取落候ニ付更ニ差進候右ハ此程種子御買入相成候琥珀甘蔗ヨリ製出候者ニ可有之存候也

〔別紙二〕

拙者ノ友人ニテ貴国札幌農学校ノ教師シー、エツチ、ビーボデー氏ヨリ今般書面差越シ該校化学教師ペンハルロー氏儀約定満期之処同氏ニ於テハ繼約ノ望無之ニ付今春後ハ貴国ニ滞留致間敷候就テハ拙者同氏ノ後役ニ相成候様貴下ヘ願出候方可然旨心付ケ来リ候依テ拙者右ノ儀願出候訳ニ有之候元来拙者儀ハ東京大学ニモ友人有之貴国ニ相越数年間教授致度願望罷在候当ポストン府ニテ拙者ノ位置如何ヲ示シ候数通ノ書面封入差進候如シ愈拙者御採用可相成節ハ御所望次第充分ニ拙者ノ何人タルヲ証明可致候拙者ハ化学ノ外仏国并ニ当国ニ於テ充分ニ電燈術ヲ研究イタシ(仏国ヘ電燈術研究ノタメ千八百七十七年或ルポストン人ニ派遣セラレ候)電線術并其建築及保持方

法ヲモ熟知シ水雷術ヲモ詳知致居候尤右ノ件ニ付拙者ノ事ハ友人ニテロッドアイランド州ニウポルト府ニアル合衆国政府ノ電術方博士フワーマル氏承知致居候又別紙中在ポストン府マサチユセツ芸術学館博士オルドウェー氏ノ書翰ニモ拙者金屬并其用法ニ通シ居候儀記載有之候且拙者現今ノ位置ニヨリ御推考相成候ハ、拙者力数年前歐羅巴ニテ研究致候医術化学及農業化学ニ熟達致居候儀御承知可相成候拙者ハ右之通諸般ノ経験便益有之年齡殆ト二十七年ノ少壮ニ有之候尚別紙書類ノ原書ハ知州事ロング氏ノ手許ニ有之候ニ付如御所望ニ候ハ、差進可申候右之趣御懇慮有之度希望致候教具

在ポストン府ポストン大学校医薬部化学講師
兼マサチユセツ州金屬試験方

千八百八十年四月九日 チヤーレス、アール、フレツチエル

日本国公使閣下

〔道〇四四三〇〕

四〇七 卒業証書授与式に関する件

第六拾五号

千八百八十年六月十五日札幌

開拓大書記官調所広丈閣下

御参考ノ為メ此書ヲ以テ七月七日執行スル卒業免状授与式ヲ告白セハ別紙ヲ刊行シテ聴衆ニ示サレント且ツ此式ヲ行フ堂ニハ国旗ト常

盤木ノ裝飾ヲ施サレン事ヲ勸奨ス敬具

札幌農藝教頭心得デイ、ビイ、ペンハロー手記

〔別紙〕

千八百八十年札幌農藝初期卒業式

日本語演説

農ハ職業中ノ最モ有用最モ健全ナル最モ貴重ナルモノナリ

渡瀬寅次郎

英語演説

北海道ノ農業ヲ改良スルハ學術ヲ以テセサルヘカラス

内田 澹

日本語演説

戦争ナケレハ勝利ヲ得ルナシ

大島 正健

英語演説

北海道ノ農業

小野 兼基

日本語演説

北海道殖民論

佐藤 昌介

英語演説

協同ハ以テ百事ヲ成スヘシ

荒川 重秀

千八百七十九年及ヒ千八百八十年ノ褒賞

級第ノ報告

鎮台調所閣下ヨリノ特許状及ヒ褒賞

農藝教頭心得デイ、ビイ、ペンハロー手記

* 式場ノ位地其他時限等ニ至ルマテ詳明ナル手續書ヲ作り

略図ヲ添ヒ其書中ニ本案モ記入シ然ルヘキ事 ㊦(鈴木)

〔農一〇二〕

四〇八 佐藤昌介黒岩四方之進校園係に採用の意見

第六十七号

千八百八十年六月十六日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

目下四年ナル佐藤昌介黒岩四方之進之兩名各自卒業之后ハ校園係ヘ御採用相成度但シ甲ヲ取扱人ノ長トシ乙ニハ陰渠事業ヲ管理セシメ度予テ口頭御協議致置候儀モ有之ニ付余カ佐藤氏ヲ要スル理由ハ閣下多分御熟知可有之候得共黒岩氏ニ関シテハ尚數言ヲ述べサル可ラス同氏ハ全課程中最モ教學ニ英敏ニシテ且現術ニ聡明ナル力ヲ示シタレハ余カ所望スル事業ヲ実施スルニ於テ充分ノ能力アルヲ確信スル儀ニ御座候当国ニ陰渠ヲ設置スルヲ要スル地ノ無数ニシテ其事業ノ緊要ナルハ余カ言ヲ頒ズ閣下ノ熟知セラル、所ナレハ右ノ事情篤ト御推考之上願意御許可相成度只管奉仰望候敬具

ウキルリアム、ビー、ブルークス

〔道〇三八三〕

四〇九 一期生各人の適性に付意見

第七拾四号

千八百八十年六月廿五日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

本年農校ノ卒業生ノ特殊伎倆ヲ報道スヘキ旨御談話ニ付雀躍左ニ報道シテ呈御参考候

荒川氏ハ最モ良キ実地ノ数学者ニ適応ナル者ニシテ既ニ道路設置等ニ従事シ実験ヲ経タレハ工業局間接セル土木ノ業ニ関与セシメハ貴重ノ人トナルヘシ

佐藤昌介氏ハ生徒トシテ特殊ノ良伎倆アリテ実地ノ伎倆ニ於テハ少シク欠クル所アリト雖トモ勉強力ニ抽ンスル事確實ナルヲ思想セハ尚其學術ヲ研究玩味シ之ヲ養成スル位置ニアラシメハ良ク其用ヲ辨スヘシ故ニ冀クハ農校ニ於ル農業掛ノ後任タラシメ而テ北海道ノ農益ヲ裨補セン事計画スル頭取タラシメハ本使ヲ補翼スル貴重ノ官員トナルヘシ

大島氏ヲ勸業課ニ用ヒハ実効アル一官員ニシテ同氏ヲ一般ノ監督トナシ農夫ヲ指揮セシメハ理財上ニ裨益アル適宜ノ方法ヲ教諭シテ當道一般ノ農業ヲ大ニ進歩セシムク加之同氏ハ一生徒トシテ美性ヲ有

セル実地伎術アリ

小野氏ノ化学実験ハ良キ伎倆アルト決行トニ因レハ化学及ヒ其他ノ方法ニ預ル技術一般ノ指揮ヲナスニ適良ナリ

各種ノ家畜及ヒ一般ノ農圃ヲ監督シ此取扱ヲ管掌セシムルハ内田氏ノ長技ナルカ如クニシテ実地ニ習熟セル所長ノ手ニ附屬シ一二年モ実験セハ独立シテ事ヲ取ルニ至ラン

渡瀬氏ハ一二年果樹栽培ノ事ヲ実地ニ従事セシメハ自ラ之ヲ監督スルニ至ラン

前条ノ人々ヲシテ藝ニ陳フル業ニ従事セシメテ好機ヲ附与セラレンニハ之ヲ施行スル伎倆アル必然ナルヲ以テ之ヲ本使ニ勸奨ス

農圃ノ監督ヲ担任シテ北海道ノ当部落ニ於ル農夫ヲ裨補セシムヘキ者ハ佐藤勇氏恐ラク其適任ナル事必然ナラン

伊藤田内出田ノ数氏ハ一般ノ農事ニ干預セシメ且ツ常務ヲ扱フ官員トナシ用ヒハ裨補スルアラシ

中島及ヒ柳元氏ハ常務ニ干預セシムル歟各種學術上ノ作業ニ預ラシムル士官ニ必適ス

黒岩氏ハ一個ノ生徒トシテ最モ佳良ノ伎倆ヲ有シ殊ニ数学ニ長セハ市郷氏ノ代ル教官トナシ予科生徒ニ数学ヲ教授セシメラレンヲ謹テ勸奨ス

此上等級中荒川氏ヲ除キ他ニ鉦山師トシテ適応スヘキヲ保証スルモ

ノ一人モナシ然ト雖トモ此次ノ級第生中ニハ伎長ノ指揮ニ従ヒ良ク之ヲ施行スルニ堪ユヘキモノアルヘシ敬具

札幌農校教頭心得デイ、パイ、ペンハルロー手記

〔道〇三八三一〕

四一〇 農学校附属花園の樹木移植等に付意見

第七拾九号

千八百八十年七月一日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

去ル二年間裝飾用或ハ木材用樹木ノ種子若干米國ヨリ到来セシヲ以テ農校附属ノ花園中ニ種芸セシニ客歲許多発芽シテ現今園中ニ数百株ノ嫩樹アルニ至レリ左ニ掲クル樹木モ亦其中ナリ

糖楓、ホニー・ロキユスト、アメリカン・エルム、蘇格蘭松、白松、及ビクノニース

尚其他セイ・シオレンジノ嫩樹モ約二千株アリ此樹ハ元来当道ノ樹林ニ加ヘ貴重ナル木材ノ種類ヲ増殖スルノ目的ヲ以テ購入セシナリ此書中ニ述フル初発ノ五種ハ甚タ經濟上ニ於テ値アルモノナルヲ熟慮アラシテ請フ

此樹木適良ノ大サニ至レハ速ニ此特殊ノ目的ニ供スルタメ土地ヲ区画シテ爰ニ移植シ斯ク栽培セル小林ヲ毎年増殖シ此地ヲ中央トシテ

漸々当島各部ノ樹林ニ分配セン事ヲ謹テ勸奨ス若シ人民ヲ奨励シテ路傍ニ糖楓ヲ栽培セシメ春季其液汁ヲ煎煮シテ糖ヲ製スルヲ知ラシメハ人民ニ最良ノ業ヲ得セシムル疑ヲ容ルヘカラス

本草科ノ業ヲ担当スル教授拝命迄温室及ヒ園庭ハ現今ノ園丁沢田氏ヲシテ之ヲ監督セシメラレンヲ勸奨ス敬具

デイ、パイ、ペンハルロー手記

〔道〇三八三一〕

四一一 フレッチェル不採用の旨吉田公使へ回答方依頼

七ノ四号

東京三等出仕

書記官

札幌書記官(鈴木)

当地農学校化学教師ペンハロー雇滿期相成候ニ付合衆國ボストン府チャールレス、フレッチェルナル者其後任ニ相成度旨吉田公使へ申出之趣札第三百五十式号御来意了承候得共ペンハロー離任後化学科教授之義ハ御用係宮崎道正同工藤精一ノ兩人ニ担任為致別ニ外国教師ハ聘用不致見込ニ付吉田公使へ可然御回答有之度且五ノ九十六号ヲ以及御掛合候本草地質学教師ハ目下御人撰中トハ被存候得共本年九月初旬同校学科起業之時迄ニハ必ス採用致度候間若内國人ニ適當之者無之候ハ、外国ヨリ聘用スルノ都合モ有之ニ付成丈至急ニ有無御

通報有之度回答兼此段申入候也

十三年七月二日

〔道〇四四三三〕

四二二 ペンハロー後任の本草学地質学教師雇入に付回答

札第四百号

札幌書記官

東京三等出仕

書記官印

其地農学校教頭心得ペンハロウ氏当学期後解備ニ付本草及地質学教師適応之者採用方五ノ九拾六号ヲ以御懸合之趣了承日本人ニ而使用之御目的ハ長官ニモ満足被致候事ニ有之精々応器之者ヲ得度ト存候得共目下両学科修熟之人ニ乏ク文部大学校ニ就而是非求度ト文部省ヘ其事由ヲ具ニ申演厚ク依頼候処本草地質ノ如キハ就中日本人ヲ教師ニ用候者至極好手段ニ有之趣賛成も有之然ル処本年ノ所ニ而者両科共卒業之者無之又在来之教員ヲ譲リ候義ハ何分繰合難相成トノ由尤モ明年七月ニ至レハ又タ卒業ス可キモノ有之候間其節ハ如何共可取計趣外人雇入之義ハ見合可申旨長官下命之趣も有之其旨ハ略秘電報ニ而申進候通ニ有之仍而当分之處在来教員ノ内一時御繰合置相成度其内応器之者有之候ハ、直チニ採用之運ヒニ無油断心掛居候得共差向ノ所前陳ノ次第故宜ク御領承有之度此段及回答候也

十三年七月六日

〔農〇九二〕

四一三 第二期の成績及び進級等の件

八十号

千八百八十年七月八日於札幌

開拓大書記官調所広丈閣下

前期当校本科及び予科生ノ階級并ニ賞誉表ハ別紙ノ通ニ有之候条謹テ御検考ニ供シ候

右ノ表ニ掲クルガ如ク三年生三名ヲ除クノ外本科ノ諸生徒ハ都テ其試験ヲ都合よく了セリ但し諏訪氏ハ秋期ノ再試験ヲモ經過スルヲ得ズ且ツ又前期ニモ二回マデ増加ノ試験ヲ要セル義ニヘ次期ノ初ニ於テ同氏ニ三題中少クモ二題丈ケノ試験ヲ満足ニ經過スベキヲ要求シ若し之ヲなし得ざるときハ同氏ニ退校ヲ命セラレ度是レ疊官ノ薦告スル所ニ御座候

予科第二級生ハ都テ之ヲ第一級ニ其第三級生ハ東、寺家村及び山崎ヲ除クノ外第二級ニ進メラレ度薦告仕リ候

本科ニ入ル、ガ為メ候補十七名ヲ試験セシ中九名ハ満足ニ其試験ヲ經過セリ仍テ右ハ本科生徒ニ御採用相成度候頭本、結城佐瀬中根志賀三増早川森及び山下是なり早川氏ノ英語点ハ低しと雖とも其他ノ

〔毛利ノ誤カ〕

諸科皆甚タ好シ必ズ一良生徒タランコト我輩ノ確信スル所ニ御座候
 第四年生ハ皆満足ニ其四年ノ課程ヲ終ヘ田内及び黒岩両氏ヲ除クノ
 外部テ再試験ヲモ排除セリ右両氏と雖ども更ニ金曜日ニ試験ヲ受ケ
 ベキ者ナレバ多分満足ニ経過スルナラン

〔注〕 別紙を略す。

デ、ビ、ベンハルロウ

〔道〇三八三二〕

四一四 学位授与式等に付届

地第四十二号

札幌農学校学位授与式及本年度学期試験表其他ノ義御届

札幌農学校卒業生徒荒川重秀外十二名へ本月十日学位授与且本年度

学期試験并優等ノ姓名別表之通りニ候ニ付此段御届候也

明治十三年七月十三日

開拓権大書記官鈴木大亮

開拓長官黒田清隆殿

〔別紙一〕

学位授与式順序

- 一 本日授与式ハ演武場ニ於而施行ス
- 一 午後三時上局督学課員及奏任官校員通常礼服用用参校
 此際外庭ニ於而演武

一 午後四時上局以下式場ニ列ス

生徒日本語及英語演説

優等生徒ニ褒賞ヲ与フ

一 教頭順次ニ卒業生徒ノ姓名ヲ呼ヒ生徒ハ校長ノ前ニ進ム

一 校長学位ヲ授与ス

一 本庁長官祝詞

一 校長祝詞

一 教頭演説

一 午後七時ヨリ奏任官教師校員及卒業生徒ハ食堂ニ於而会食夜ニ

入り煙火ヲ演ス

〔別紙二〕

仮学位証状写

荒川 重秀
 佐藤 昌介
 大嶋 正健
 小野 兼基
 黒岩四方之進
 渡瀬寅次郎
 内田 澪
 佐藤 勇

伊藤 一隆

田内 捨六

出田晴太郎

中嶋 信之

柳本 通義

札幌農学校ニ於て而定規ニ遵ヒ其業ヲ卒ヘ考試ヲ經テ科第二登ル乃チ授ルニ農学士ノ位ヲ以テス因テ印ヲ鈐シテ永ク其令名ヲ証ス

校長

開拓大書記官從五位調所広丈

教頭心得

得業士デ、ビ、ペンハルロウ

札幌農学校長ノ申稟ヲ領シ印ヲ鈐シテ之レヲ証ス

開拓長官正四位勲一等黒田清隆

〔注一〕 別表を略す。

〔注二〕 八月一〇日付でこの仮学位証と同じ学位証が太

政官へ上申された〔公文録二七二四〕。

〔農一〇一〕

四一五 頭本元貞外八名貸費生申付の儀伺

農第七十九号

上局印(鈴木)

農学校印(森)(加藤)

本年本科初年生徒入學試験当地ニ於テ及第候者別紙之通りニ候間貸費生徒申付候様仕度左ニ辭令案相添比段相同候也

十三年七月十九日

〔別紙〕

各

頭本 元貞

結城 祥吾

佐瀬辰三郎

中根 寿

志賀 重昂

通

三増久米吉

早川 鉄弥

毛利鶴次郎

山下敬太郎

貸費生徒申付候事

月 日

札幌農学校

〔農一〇一〕

四一六 卒業生の奉職義務に関する誓約書案(七月)

上局印(鈴木)

加藤五等属調(花押)

農学校印(森)

明治九年本校専門科ヲ開設セシヨリ茲ニ四年其間費ス所ノ經費拾五万三千七百五拾五円三拾錢〇五厘紙幣十萬三千五百六拾三元三十七錢八厘金貨三萬九千四百十八円貳拾七錢九厘銀貨老万〇七百七拾三元六十四錢ノ巨額ニ至ル就中諸建築及書籍器械等ノ購求ニ係ルモノ亦少カラスト雖トモ之レヲ要スルニ皆学生ヲ養成スルカ為メニ費ス所ニ外ナラス

専門科開業以來諸子卒業ノ日迄費ス所ノ教師俸給各自ノ給料旅費患共ヲ合算スレハ七万七千九百四拾円拾七錢七厘紙幣共之レヲ生徒ノ員數ニ分割シタル金額ハ乃チ諸子ニ関スル直接ノ費用目下各自ノ負債ニシテ奉職五年ノ後ニ至リ始テ消却スルヲ得ル者トス故ニ此期限内ニ自己ノ都合ヲ以テ其職ヲ辞スルトキハ残余ノ月數ニ比例シ其金額ヲ辨償ス可キハ固ヨリ論ヲ待タス是レ此誓書ヲ要スル所以ナリ夫レ諸子ノ農藝ニ在ルヤ教師ヲ海外ニ聘シ書籍器械ヨリ衣服飲食ニ至ル迄凡ソ教育ト生活トニ関スル一切ノ費用ヲ仰キ遂ニ各科ノ學術ヲ卒ヘ儼然一學士ト為ルニ至ル其恩沢ニ浴スル厚ク且大ナリ苟モ本校ノ卒業生タル者其職ニ勉勵シ其義務ヲ尽シ以テ本使ニ報酬スル所以ヲ思ハサル可ケンヤ此誓書ヲシテ他日要用ノモノト為サシムルカ如キハ諸氏ニ望マサル所ナリ

〔別紙〕

誓約書草案

私儀札幌農學校ニ於テ卒業候上ハ入学ノ節誓約候通り五年間誓テ本

*使ニ奉職可致ハ勿論ニ候得共万一右期限内ニ自己ノ都合ヲ以テ辭職候節ハ該校在学中ノ費用別記書載ノ金額ヲ全五ヶ年間ノ月數ニ除シ右期限未滿ノ殘月數ニ乗シ返納可仕此段更ニ誓約仕候事

明治十三年七月

保証人 何ノ 誰印
本人 何ノ 誰印

開拓大書記官調所広丈殿

*
〔改正案〕

私儀札幌農學校ニ於テ卒業候上ハ入学之節誓約候通り五ヶ年間誓テ本使ニ奉職可致者勿論ニ候得共万一右期限内ニ自己ノ都合ヲ以テ辭職候乎又ハ懲戒令ニ依リ免職相成候節者該校在学中一身ニ係ル費用金貨、紙幣、銀貨、全五ヶ年間ノ月數ニ除シ右期限未滿之殘月數ニ乗シ返納可仕此段更ニ誓約仕候事 ①〔加添〕

免職ノ種類

〔朱書〕

- 一 懲戒令ニ依リ免職 ①
- 一 廃庁等ニ而廃官
- 一 自己ノ都合ヲ以テ辭職 ①
- 一 長官ノ説諭ニ依リ辭職
- 一 疾病六ヶ月以上ニ至リ定規ニ依リ辭職

〔朱書〕
①印ハ弁償ス可キ分其他ハ弁償ニ及ハス

付 荒川重秀外二名負債金額内訳(七月)^{〔註〕}

荒川重秀 小野兼基 伊東一隆

右三名負債ス可キ金額別紙甲号之通りニ候也

〔別紙〕

〔朱書〕
〔甲〕

一 金六拾六円六拾六錢七厘

明治六年四月廿一日ヨリ支給金壹ヶ月壹人金八円ツ、十二月迄合
金如此

一 金九拾六円

同七年一月ヨリ十二月迄ハ金八円ツ、十二ヶ月分如此

一 金百〇四円七拾壹錢

同八年一月ヨリ八月廿日迄ハ金八円八月廿一日ヨリ十二月迄ハ金
拾円ノ割如此

一 金六拾円

九年一月ヨリ六月迄金拾円ツ、如此

ノ金三百貳拾七円三拾七錢七厘

明治九年度

一 金百〇六円八拾九錢七厘

支給
患者

是ハ九年七月より十年一月迄ハ生徒現員拾八人ニ付七ヶ月分如此

但壹人壹ヶ月金拾五円貳拾七錢壹厘

一 金八拾五円九拾錢五厘 同断

是ハ十年二月より同六月迄現員拾六人ニ付五ヶ月分如此但壹人壹
ヶ月金拾七円拾八錢壹厘

一 金貨四百五拾円八拾八錢五厘 教師給料

是ハ九年七月より十年一月迄七ヶ月間壹人分如此但壹ヶ月壹人金
六拾四円四拾壹錢貳厘貳毛

一 金貨三百六拾貳円三拾貳錢四厘 同断

是ハ十年二月より六月迄五ヶ月間拾六人割壹人分如此但壹ヶ月壹
人金七拾貳円四拾六錢五厘

ノ 金百九拾貳円八拾錢〇貳厘

金貨八百拾三円貳拾錢〇九厘

十年度

一 金八拾五円貳拾貳錢八厘 生徒給料
患者費

是ハ十年七月より十一月迄ハ現員三拾四人ニ付五ヶ月間壹人分如
此但壹人壹ヶ月金拾七円〇四錢五厘五

一 金五拾貳円六拾八錢六厘 同断

同十年十二月より十一年二月迄三ヶ月間ハ現員三拾三人壹人壹ヶ
月金拾七円五拾六錢貳厘

一 金七拾貳円四拾四錢三厘 同断

是八十一年三月より六月迄四ヶ月間ハ現員三拾貳人尠ヶ月尠人金拾八円拾壹錢〇八毛

一 金貨九拾九円七拾三錢九厘 教師給料

是八十年七月より十一月迄五ヶ月間現員三拾四人但尠ヶ月尠人金拾九円九拾四錢八厘

一 金貨六拾壹円六拾五錢七厘 同断

是八十年十二月より十一年二月迄三ヶ月間ハ三拾三人割但尠人尠ヶ月金貳拾円〇五拾五錢貳厘四毛

一 金貨八拾四円七拾七錢八厘 同断

是八十一年三月より六月まで四ヶ月間ハ三拾貳人割尠人尠ヶ月金貳拾壹円拾九錢四厘五六

金貳百拾円〇三拾五錢七厘

金貨貳百四拾六円拾七錢四厘

十一年度

一 金百八拾円〇貳拾錢〇貳厘 支給

是八十一年七月より十二年六月迄十二ヶ月間ハ現員四拾七人割尠ヶ月尠人金拾五円〇壹錢六厘八三三

一 金貨貳百五拾八円五拾壹錢尠厘 教師

同断但し尠人尠ヶ月金貳拾壹円五拾四錢貳厘五五之割

一 銀貨三拾貳円七拾七錢三厘 同断

同断但し尠人尠ヶ月金貳円七拾三錢尠厘〇七五之割

金百八拾円〇貳拾錢〇貳厘

金貨貳百五拾八円五拾壹錢尠厘

銀貨三拾貳円七拾七錢三厘

十二年度

一 金八拾壹円三拾錢 支給患者費共

是八十二年七月より同十二月迄六ヶ月間ハ四拾七人割尠人尠ヶ月金拾三円五拾四錢九厘九五七

一 金四拾壹円五拾三錢四厘 同断

十三年一月より三月迄三ヶ月間ハ四拾六人割尠ヶ月尠人金拾三円八拾四錢四厘五二

一 金貳拾八円三拾錢〇四厘 同断

十三年四月より五月迄四拾五人割尠ヶ月尠人金拾四円拾五錢貳厘

一 金拾五円五拾三錢三厘 同断

十三年六月ハ四拾尠人割尠ヶ月尠人金如此

一 金貨五拾五円四拾八錢六厘 教師給料

是八十三年七月より同十二月迄ハ四拾七人割尠ヶ月尠人金九円

貳拾四錢七六五四

一 金貨貳拾八円三拾五錢 同断

是ハ十三年一月より三月迄三ヶ月間ハ四拾六人割耆ヶ月耆人金九

円四拾四錢九厘八六四

一 金貨拾九円三拾貳錢 同断

是ハ十三年四月より五月迄ハ四拾五人割如此

一 金貨拾円六拾錢貳厘 同断

是ハ十三年六月分ハ四拾耆人割如此

一 銀貨九拾八円貳拾貳錢六厘 同断

是ハ十二年七月より十二月迄六ヶ月間ハ四拾七人割耆人耆ヶ月金

拾六円三拾七錢壹厘

一 銀貨五拾円拾八錢壹厘

是ハ十三年一月より三月迄三ヶ月ハ四拾六人割耆ヶ月耆人金拾六

円七拾貳錢六厘九五六

一 銀貨三拾四円〇貳錢 同断

是ハ十三年四月より五月迄ハ四拾五人割耆ヶ月耆人金額如此

一 銀貨拾八円七拾六錢七厘 同断

同六月ハ四拾耆人割耆ヶ月耆人金額如此

ノ

金百六拾六円六拾七錢壹厘

金貨百拾三円七拾五錢八厘

銀貨貳百〇耆円拾九錢四厘

四ヶ年惣計

金七百五拾円〇〇三錢貳厘

金貨千四百三拾耆円六拾五錢貳厘

銀貨貳百三拾三円九拾六錢七厘

此外

金三百貳拾七円三拾七錢七厘

六年四月ヨリ九年六月迄合金

〔注〕 佐藤勇、佐藤昌介外八名の金額が記されている付

属書を略す。なお、佐藤勇の負債金は七年九月一

二日より一三年六月迄、佐藤昌介外八名は九年七

月より一三年六月迄の金額である。

〔農一〇四〕

四一七 貸費生徒契約書奥書の儀に付照会

第一万九百五十二号

今般御使札幌農学校ニ於テ貸費生徒召募相成候ニ付該契約書江奥書
之儀書式相添御照会之趣了承然ルニ本管人民タルヲ証スル迄之奥書
ニ候得者敢而差支筋無之候得共人民之契約書ニ対シ証明候儀ハ難相

成儀ニ候条御更正相成候様致度別紙書式相添此段及御照会候也

明治十三年八月三日

東京府書記官

開拓書記官御中

〔別紙〕

本人契約書

私儀今般札幌農学校貸費生トシテ入学被差許候ニ付テハ御規則堅ク
相守可申且卒業後ヨリ月々金拾八円ツ、月賦ヲ以貸与ノ金額無相違
返納可仕若シ又国法或ハ校則ヲ犯シ或ハ渋鈍ニシテ学才ニ乏キノ故
ヲ以退校被申付候節ハ在校中ノ貸費速ニ会計係ヘ返納可仕事

府国郡区町村番地華士族平民子弟

年号 月 日

何ノ 誰 印

札幌農学校々長

開拓大書記官調所広丈殿

保証人契約書

生徒誰某義札幌農学校ヘ入学御差許相成候上ハ私儀其保証人ト相立
同人ノ開拓使ニ誓ヒタル條款ハ之ヲ誠実履行為致可申責ニ任シ将又
同人ヨリ金員上納可致モノ有之淹滞候節ハ速ニ私ヨリ其負債金額ヲ
本校会計係ヘ上納可仕段契約仕候仍テ如件

月 日

宛名(前ニ同シ)

府国郡区町村番地華士族
平民

姓 名 印

別紙誓書ノ趣相違無之候条右何某儀入校御差許可然ト存候也

年 月 日

府 長 官 印

〔注〕一四年八月入学の貸費生契約書には、「拾貳円」と記載されている。

〔道〇五九〇九〕

四一八 教頭心得承諾の旨通知

第九拾九号

千八百八十年八月六日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

黒田閣下ヨリ余ヲ札幌農学校教頭心得ニ命セラレタル旨本月五日附貴
翰ヲ以テ御達之趣了承御下命謹テ御請申上候也

札幌農学校博士ウキルリアム、ピール、ブルークス

〔農〇九〇〕

四一九 貸費生札幌ヘ出発の旨申入

札幌学務局

東京記録課 印

今般召募相成候農学校貸費生徒之義ベンハロー氏出京之上試験ヲ遂
ケ及第候者別紙人名書之通今回玄武丸便ヨリ出発為致候尤保証書與
書之儀ニ付東京府ヨリ照会之次第モ有之取纏兼候間渾而書類者後便
差回可申ニ付右御了知相成度此段不取敢申進候也

十三年八月六日

追而本人旅費者自辨之旨申談済ニテ函館迄乗船賃者当地於テ為仕
払置候為念申添候也

〔別紙〕

〔朱書〕

「点数ハ六百ヲ以テ基本トス」

五百六十九点

五百二十四点

四百九十二点

四百八十一點

四百七十五点

四百七十五点

四百七十三点

四百六十四点

四百四十七点

四百四十四点

四百二十二点

渡瀬庄三郎

岡 文二

細川文五郎

武信由太郎

福原鉄之助

河村九淵

手島十郎

小山鉄也

中川太郎

本土源二郎

菊池熊太郎

ノ拾得名

〔農〇九二〕

四二〇 ペンハロー解雇の儀上申

乙第九拾貳号

外国人解雇ノ義上申

当使雇札幌農学校教師米国人ダウイツト、ビ、ペンハロウ義本月十九
日ニテ雇満期ノ処双方ノ都合ニ抛リ去六日解雇候条此段上申候也

明治十三年八月十日

開拓長官黒田清隆

印

太政大臣三条実美殿

〔公文録二七二四〕

四二一 ブルックス本草学教授兼務に付増給の件申入

東京西村

調所

秘本草学教師ノ義ハ御来意ノ趣不得已義ニ付教師ブルックスへ非常
ノ談判ヲ遂ケ繰合セ明年文部省ニ於テ卒業ノ者採用迄ノ間一期丈ケ
強テ教授サスル積リ因テ月々紙幣三拾円ツ、手当致置追テ雇繼ノ節
銀貨三百円ニ引直シ度見込ナリ長官へ稟議アレ

十三年八月十一日

付 右に付回答

十三年八月十四日

調所

西村

秘ブルークスへ手当等ノ義伺ノ通イツヨリ支給スルヤ太政官上申ノ都合アリ申越セ且同人ハ必用ノ者故成丈雇繼へキ旨長官ノ指令

〔道〇四五・一六〕

四二二 カッター申出の書籍購入に付依頼^{〔注〕}

校第貳百貳十卷号

外事課

札幌農学校

カッター氏申出之書籍買入之儀別紙写之通伺済ニ付注文方其筋へ御運ヒ相成度書籍目録相添へ此段及御掛合候也

十三年八月十一日

〔別紙〕

十三年度外国品購求見積書

札幌農学校

書籍類

明治十四年三月入用

一 エレクティング雑誌

但千八百七十八年ヨリ千八百八十年ニ至ル合冊布綴

一 ハーバース雑誌

但同断

一 同断目錄

但布綴

一 パツカード(エ、エス)動物学

但五百五十葉モノ、エツチ、ホールド社中

廿五部

一 ウオルカース(エフ、エ)経済学

但同社中

壹部

一 米国著述家アンダルウード文学必携

但リーゼバード社中

廿五部

一 マアシアルス性理学

壹部

但八百葉モノ、エツチ、クリキ

一 コツドキン政治学

壹部

但エツチ、ホールド社中

一 セイント、ニコラス雑誌

壹部

但スクリプテル

凡積代価合金百六拾円

此米金百弗

但壹弗ニ付金壹円六十銭ノ見込

此品ハ科業読本用

〔注〕 末尾に「別紙同済農第八十八号ハ取裁録ニアリ」

との朱書あり。

〔農〇九四〕

四二三 本草園に關する權限委任に對する請書

千八百八十年八月十九日札幌呈

開拓大書記官調所広文閣下

札幌農学校附属ノ温室并地所ノ全權ヲ委ネラレ予算定額金ヲ以管理
セシムル旨ノ貴翰正ニ領取御委任之件承諾仕候右御請迄申述度此段
謹テ記名ス敬具

札幌農学校農業博士ウキルリアム、ビー、ブルークス

〔農〇九〇〕

四二四 予科生徒招募に付各局へ通知の件伺

農第九十六号

校長〔印〕(調所)

農学校〔印〕(森)〔印〕(加藤)〔印〕(加藤)

予科生徒招募ニ付別紙之通り各局江広告仕度此段相伺候也

* 十三年八月廿日

〔別紙〕

今般当校ニ於テ予科生徒招募小学三級前期卒業位ノ学力有之者ハ入
学差許候間諸官員子弟中志願ノ者ハ本月廿六日限願出候様御達相成
度此段及御通知候也

十三年八月廿日

札幌農学校〔印〕

屯田事務局〔印〕(山本)

記録局〔印〕(氏家)

民事局〔印〕(森)〔印〕(結城)〔印〕(加納)〔印〕(小林)〔印〕(佐瀬)

會計局〔印〕(栗原)

工業局〔印〕(杉山)

物産局〔印〕(鷗目)

刑法局〔印〕(中山)

煤田開採事務係〔印〕(棚田)〔印〕(上田)

病院〔印〕(吉田)

早々順達周尾ヨリ御返却之事

* 〔朱書〕
「官員子弟ノミニ限り候哉」〔注〕

〔注〕 八月二三日、札幌新聞に予科生募集の広告を掲

載する伺が認められた。

〔農一〇一〕

四二五 宮崎道正加藤重任の權限に付上申

宮崎道正外一名權理之儀上申

宮崎 道正

加藤 重任

右兩名ハ農学校本科教授上ニ於テ御雇教師同等ノ權理ヲ有シ候様諸

教師ニ御達シ相成度此段上申候也

明治十三年八月廿日

開拓大書記官調所広丈殿

開拓権少書記官森源三印

〔農一〇一〕

四二六 貸費生徒の食物その他改正の儀伺

農第九拾七号

上局

④(調所)
④(鈴木)

農学校④(森)④(加藤)④(加藤)

貸費生徒ハ月額ヲ金九円ト相定メ且官費生徒ニ比スレハ衣食其他支給之物品も随而節減セサルヲ得ス因而食物之義者官費生者従前之通り洋風之食ヲ用ヒ貸費生者和食為致候見込ニ有之候処同一之校中ニ而二様之食物ヲ調理候モ却而煩雜之至リニ付官費貸費共ニ洋風之食物ニ相改度又貸費生衣服之義者当分農業服及日本服之二種ヲ給与シ演武并農業現術等之節ハ農業服ヲ服シ平常者日本服着用候様仕度然ルニ客歲貸費生徒学資取調候時ニ比スレハ物価逐々騰貴且食物も前条之通り相改メ候ニ付最初計算候定額九円ニ而者逆も相支兼候哉ト被考候得共果シテ支ヘ得サルヤ否ヲ実際ニ相試ミ愈不足ヲ生スル時ハ更ニ取調伺出候様仕度此段相伺候也

明治十三年八月廿一日

〔農一〇一〕

四二七 校園用器具藥品等購入の件

園第七十九号

外事課

農養園印

當園須要之農具十三年度ヲ以而増購入可相成分別紙調書之通有之御チ差進候条可然御取扱相成度候也

十三年八月廿三日

〔別紙〕

十三年度外国品増購入調

(注)

農養園

一 ブルートス草刈鎌

三十四寸
ノモノ

三ドーゼン

但牧草及雜草刈取用

此代洋銀三拾六弗

但耆弗ニ付金壹円五十錢換

此紙幣金五拾四円

但耆ドーゼン金拾八円

一 コルリン商社柄附エキセルシヨン斧

一ドーゼン

但伐木用

此代洋銀拾六弗

但同

此紙幣金貳拾四円

一 鋸

耆挺

但伐木用

但ホワイトマン農業用滑走卓木挽器械

此代洋銀拾弗

但同

此紙幣金拾五円

一 レイド氏専売第三号製酪器

耆個

但バタ製造後バタ中ニ残リタル乳ヲ別タシムルニ用ユ

此代洋銀六弗 但同

此紙幣金九円

一 ホツケイ氏新式A号モール用第七百四十五号歯刀

一 ドーゼン 但牧草刈方ニ用ヒ

此代洋銀貳弗 但同

此紙幣金三円

一 レウキクス氏改良蕃薯畝姑滅殺及農業水銃

半ドーゼン 是ハ害虫ヲ殺スニ
用ユ

此代洋銀三弗半 但同

此紙幣金五円廿五錢

一 テイロル氏馬糞齒

六個

但壹ドーゼン金拾円五十錢
但牧草其外採集ニ用

此代洋銀貳弗 但同

此紙幣金三円

但壹個金五拾錢

一 アーメ氏第二号D形柄附円頭鏟

半ドーゼン

但土地^{〔豚カ〕}糞ヲ動スニ用ユ

此代洋銀七弗半 但同

此紙幣金拾壹円廿五錢

但壹ドーゼン金廿二円五十錢

一 同 角頭同斷

半ドーゼン 但書前ニ同

此代洋銀七弗半 但同

此紙幣金拾壹円廿五錢

但壹ドーゼン金廿二円五十錢

一 晒サ、ル最上木綿 幅五十四寸 三百碼 但乾草蓋ニ用

此代洋銀五拾弗 但同

此紙幣金七拾五円

但百碼 金廿五円

肥料ノ部

一 消酸加里

四百磅

此代洋銀三拾四弗 但同

此紙幣金五拾壹円

但百磅金拾貳円七拾五錢

一 シュツベル、フオスフエード

四百磅

此代洋銀九弗 但同

此紙幣金拾三円五十錢

但百磅金三円三十七錢五厘

一 硫酸^{〔44〕}苦土

二百磅

此代洋銀壹弗 但同

此紙幣金壹円五十錢

但百磅金七拾五錢

一 硫酸加里

二百磅

此代洋銀六弗半 但同

此紙幣金九円七拾五錢

但百磅金四円八十七錢五厘

一 塩化加里

二百磅

此代洋銀五弗 但同

此紙幣金七円五拾錢

但百磅金三円七十五錢

一 消酸曹達

四百磅

道〇三八二八

札幌農学校第四年生学課

木	水	火	月曜日	午前
同	同	同	物理学 教師ビ― ボジ―	八時半 ヨリ マテ 九時半
農学	討論	同	農学 教師ブル ツクスル	九時半 ヨリ マテ 十時半
同	同	同	歴史 教師カッ タル	十時半 ヨリ マテ 十一時
簿記法	教師工藤 地質論	簿記法 教師ビ― ボジ―	地質論 教師工藤	十一時 半ヨリ 十二時 マテ
			兵学 教師加藤	午后二 時ヨリ 三時 マテ
同	同	顕微鏡論	教師カッ タ	午后二 時ヨリ 三時半 マテ

土	金
同	同
教師工藤 地質論	討論
同	同
簿記法	地質論
	同
同	

農園実際ノ稽古ハ時ノ指揮ニ從フベシ

教頭心得ウキルリアム、ピー、ブルツクス

千八百八十年ヨリ千八百八十一年ニ至ル第一学期

札幌農学校第三年生学課

午前	月曜日	火	水	木	金	土
八時半 ヨリ 九時半 ニ至ル	教師ブルツクス 植物論 動物論	植物論	植物論	植物論	植物論	植物論
九時半 ヨリ 十時半 マテ	教師カッタル 動物論	同	同	同	同	同
十時半 ヨリ 十一時半 マテ	教師ピーボ 星学	製地 図理	星学	製地 図理	星学	製地 図理
十一時半 ヨリ 十二時半 マテ	教師カッタル 英学	同	同	同	同	同
十二時半 ヨリ 午後二時 マテ	教師加藤 兵学	同	同	同	同	同
午後二時 ヨリ 午後五時 マテ	教師ピーボ 測量及製 地稽古	同	同	同	同	同

農業実地稽古ハ時ノ指揮ニ從フヘキコト

教頭心得ウキルリアム、ピーブルツクス
千八百八十年ヨリ千八百八十一年ニ至ル第一期
札幌農学校第一年生学課

午前	月曜日	火	水	木	金	土
八時半 ヨリ 九時半 マテ	教師宮崎 化学	同	同	同	同	同
九時半 ヨリ 十時半 マテ	教師ピーボ 代数学	同	同	同	同	同
十時半 ヨリ 十一時半 マテ	教師ブルツクス 農学	同	同	同	同	同
十一時半 ヨリ 十二時半 マテ	教師サンマルス 英学	同	同	同	同	同
午後二時 ヨリ 四時 マテ	教師加藤 兵学	同	同	同	同	同
午後二時 ヨリ 五時 マテ	教師ブルツクス 農業	同	同	同	同	同

千八百八十年ヨリ千八百八十一年ニ至ル第一期

教頭心得ブルツクス

予備科第一級

午前	月曜日
八時半ヨリ 九時半迄	英 教師サンマルス 学
九時半ヨリ 十時半迄	歴 教師工藤 史
十時半ヨリ 十一時半迄	算 市郷君 術
十一時半ヨリ 十二時半迄	市郷君 素読 作文 習字

金	木	水	火	月曜日	午前
同	同	同	同	井川君 地理書	八時半ヨリ 九時半マテ
同	同	同	同	教師サンマルス 英学	九時半ヨリ 十時半マテ
同	同	同	同	教師工藤 素読、綴字	十時半ヨリ 十一時半マテ
習井川君 漢字	和漢 習井川君	習井川君 漢字	和漢 習井川君	習井川君 漢字	十一時半ヨリ 十二時半マテ

予備科第二級

千八百八十年ヨリ千八百八十一年ニ至ル第一学期
札幌農学校教頭心得ウキルリアム、ビー、ブルックス

土	金	木	水	火
同	同	同	同	同
算市郷君	同	同	同	同
術	算市郷君	和漢習井川君	算市郷君	和漢習井川君
和漢習井川君	算市郷君	同	算市郷君	同
史	素読、作文、 習字	同	素読、作文、 習字	同
歴教師工藤	習字	算市郷君	算市郷君	算市郷君

予備科第三級

千八百八十年ヨリ千八百八十一年ニ至ル第一学期
札幌農学校教頭心得ウキルリアム、ビー、ブルックス

土
同
同
同
和漢習井川君

土	金	木	水	火	月曜日	午前
同	同	同	同	同	市郷君 算術	八時半ヨリ 九時半迄
同	同	同	同	同	教師宮崎 素読、綴字	九時半ヨリ 十時半迄
同	同	同	同	同	教師サンマルス 英学	十時半ヨリ 十一時半迄
習井川君 漢字	和漢 習井川君	習井川君 漢字	和漢 習井川君	和漢 習井川君	和漢 習井川君	十一時半ヨリ 十二時半迄

教頭心得ウキルリアム、ビー、ブルックス

〔農一〇一（ブルックス五二）〕

四二九 サマーズ本科教授並に予科教員に任命の件
第百拾七号

明治十三年八月廿五日札幌

札幌農学校語学教師ゼームス、サンマルス貴下

今朝口頭及御談話置候通り貴下ヲ札幌農学校本科教授并予科教員ニ
任候教授上委細之義ハ教頭心得ウケルリアム、ピー、ブルークスヨリ
可致御通達候御承諾之上ハ請書御差出可有之此段申入候也

農学校々長開拓大書記官調所広丈

〔道〇三八三二〕

四三〇 卒業生差廻しに付回答

校第貳百三拾六号

七重試験場湯地少書記官

札幌農学校森権少書記官 叩

其地人民農業逐年開進候ニ付而者新タニ施行ス可キ事業も有之又種
々之質問等ヲ辨解シ貴場在育之現術生徒ヲ教育スル等之為め当校卒
業生ノ内荒川重秀佐藤昌介貴場為在勤可差廻旨第六百六拾八号ヲ以
縷々御依頼之趣了承候得共同人共者兼而教師より申立候義も有之当
地ニ於而已ニ採用可相成ニ付何分御需要ニ応シ兼候間不惡御承知相
成度依而同人共ニ代リ御請求之任ニ堪ユ可キ者人撰候処小野兼基者
性質温和其学力も亦荒川佐藤ニ不相讓伊藤一隆者先般教師ブルック
スニ從ヒ其地方ヲ巡視し實際之景況等承知致居候ニ付右兩人ヲ其地
江可差廻見込ニ候得共同人とも帰省中ニ付帰札之上御廻し致し尚其

節委曲可申進候間右御承知相成度廻答兼此段申進候也

十三年九月一日

〔農〇九四〕

四三一 第一回卒業式の状況

THE AGRICULTURAL COLLEGE, SAPPORO.

Ex-President Clark has received the following letter from
Japan:

The first celebration of the academical course of four years,
was held on the 10th of July instant, in the Agricultural
College, Sapporo, Hokkaido.

The college has now been in active operation for four years,
and was established by the Kaiyaku-shi, who quickly recognized
the necessity of training for their service, men who possessed
special qualifications for aiding in the development of the Hokkai-
do. The importance of having these men educated near the scene
of their future labors, in order that they might become fully
acquainted with the natural resources of the country, and learn
in the most thorough manner, how to properly develop them and
overcome attendant difficulties, led to the abandonment of the

former policy of sending students abroad. The establishment of a college in Hokkaido, for the express purpose of educating men with a view to their employment as officers for [special work in the department, then followed as a matter of course.

After a careful examination of the various institutions of similar character in other countries, the Agricultural College at Amherst, Massachusetts, was selected, as the model, and its president and two graduates were appointed to found a similar institution at Sapporo.

In August, 1876, the doors of the Sapporo Agricultural College were opened to a well prepared class of eighteen students, taken from the schools at Tokio. At that time, but little actual preparation had been made, and, except a dormitory building for the students, there was only one building containing recitation rooms for the accommodation of classes in the college and school. The work of organization and instruction commenced at once, students and officers entering into their duties with great zeal. Liberal grants from the Government soon rendered it possible to procure the necessary books and apparatus, and to build and thoroughly equip a chemical laboratory, which should answer all the require-

ments of general instruction and advanced analytical work. A large tract of fine land — formerly a part of the Government farm — was assigned to the college for the agricultural instruction of students in the most advanced methods, and as a model for the farmers of Hokkaido. The necessary buildings were quickly constructed, and the requisite live stock and implements procured. The whole was then placed under the independent management of president W. S. Clark, as director. Later, provision was made for a plant-house, and the erection of a building which should contain a military hall and recitation rooms.

The promptness with which the necessities of the college have been recognized and provided for by the Government, has permitted a rapid and healthy growth; and at the present time, with its full number of students, all the departments are in a condition to permit the thorough accomplishment of the work assigned to each.

On the July 10th instant, the academical course being concluded, the first batch of graduates received their diplomas. The importance of the occasion called for the unusual excitement both within and without the college. At an early hour all was bustle and preparation. The large hall used for military drill, within the

college precincts, was to be the place of meeting. This required to be decorated with flowers and evergreens, and ornamental lanterns had to be hung for the evening illuminations. All this was accomplished in due order and with a good deal of taste. The students of the college, about fifty in number, were assembled at two o'clock for drill under the command of Lieut. Kato, and the way in which they went through their exercises displayed an earnestness which did every one credit, and excited the admiration of the spectators. There can be no doubt that such exercises are beneficial in many ways. They improve the deportment of the students, they give them an upright bearing and a firm, steady gait, demand prompt attention and accuracy of movement, and so correct some of the common faults of Japanese youths. In the case of these young men the military drill seems to have had the best results. The college staff has also been diligent in producing a class ready for graduation of no contemptible attainments, and of whom no college need be ashamed. They are the first-fruits of this very important undertaking among the Japanese, and promise well for the future of the northern part of the Empire. According to the term of the bond entered into when

they matriculated, they are bound to serve under the Colonization Department for a term of five years. Here, therefore, we have thirteen graduates of the Agricultural College, ready to engage themselves in the earnest work of subduing the wild but rich regions of this fertile island and its dependencies. What the results will be we must look to the future to show, but we have every hope that, with intelligent officers of government, and healthy men like these, the future of Yezo will be prosperous if the fates are propitious.

The following gentlemen, on the recommendation of the Faculty and with the approval of the Governor and Minister of the Colonial Department, received the degree of *Nōgakushi*, with its attendant honors and privileges: —

Arakawa Shigehide, Sato Shosuke, Oshima Masataka, Ono Kanemoto, Kuroiwa Yomonoshin, Watase Torajiro, Uchida Kiyoshi, Sato Isami, Ito Kadzutaka, Tanouchi Suteroku, Ideta Seitaro, Nakashima Shinshi, and Yanagimoto Michiyoshi.

The graduation exercises were: — Japanese oration by T. Watase. — "Agriculture is the most useful, the most healthful, and the most noble employment of man." English oration, by

K. Uchida. — "Scientific Training is necessary for the improvement of Agriculture in Hokkaido." Japanese oration by M. Oshima. — "No Battle, no victory." English oration by S. Sato. — "Hokkaido and its colonization." English oration by S. Arakawa. — "Union is strength; Union is competent to do everything." There were also valedictory addresses, to H. E. the Governor, to the professors of the college, and to the students of the college and school.

These speeches, which were spoken with the freedom and nerve that mark well disciplined minds, contained many excellent remarks on the subject of the colonization and resources of Hokkaido.

The prizes to the successful students of the various classes were then awarded. These prizes were in money, the highest amount being five yen. The whole manner and bearing of the students during the various exercises and the bestowal of the prizes, reflected very favourably upon the college and the habits of the students.

After the names of the graduates had been called over and their diplomas had been handed to them by H. E. the Governor, Mr. Dzushio, Professor Penhallow read an address to the graduating class. The vice Governor, Mr. Suzuki, and H. E. the Governor,

Mr. Dzushio, then read addresses in Japanese, and the proceedings terminated about 6 o'clock. We are enabled to give the text of Mr. Penhallow's speech, which was as follows:—

Gentlemen, —The day and the occasion which call us together are suggestive of many thoughts connected with the changes and improvements of the last four years, at the commencement of which you came here as strangers to aid in enterprises undertaken for the advancement of the highest interests of this part of the Empire, and as an initiative step entered this college as its first students. As such, your efforts have been attended with success, and today you take the second step, coming before the world equipped to fight your own battles in life, and, it is to be hoped, to promote the welfare of your fellowmen. This day should be remembered as a day of great significance. It marks the firm and successful establishment of a new educational centre in this part of the Empire — another evidence of the striking changes and improvements which are constantly being made in Japanese educational methods, and which have attracted the greatest attention from western nations. Education is a great humanizer; the foundation of a noble and useful manhood. But it is not to be com-

pleted with graduation from college; the greater part comes in after years as a superstructure upon previous acquirements, and is therefore dependent for its stability upon them. The advantages you have enjoyed in this institution, should lead you, in choosing your future course in life, to aim high; acknowledging your dependence upon an all-wise Creator, and your duty to your fellowmen; accepting whatever responsibilities may rightfully fall to your lot as duties to be faithfully performed; and feeling that in *right is might*, fearing not to deal with wrong and temptation as they deserve. Broad fields for useful effort are before you. Japan is old in years, but young in her relations to the most advanced nations of the world, and in her future progress and development, many opportunities will be presented to you. New enterprises will be opened; natural resources yet remain to be developed, and the vast mine of agricultural wealth in Hokkaido now unexplored, should encourage you to make every effort for their development, and will surely bring rich returns to those who diligently seek to gather that which nature has so lavishly provided. In whatever course your future may lead you, do not fail to continue that self-culture which you have here learned how to ac-

quire, but push steadily forward toward a more perfect standard.

His Excellency Governor Dzushio, entertained the officials of *sonin* rank, with the professors and graduates of the college, at dinner in the dining hall, at seven in the evening. After the health of His Majesty The Emperor had been drank, and various other toasts been responded to, Mr. Dzushio proposed the health of Professor Penhallow, who is on the eve of his departure for America. He said that the success which had attended the first course of the Sapporo Agricultural College was in a large measure due to the exertions of Mr. Penhallow, who had devoted himself effectually to the success of the institution. A number of speeches in Japanese, and a general hilarity among all present, rendered the entertainment eminently agreeable.

[The Amherst Record, September 1, 1880]

四三三 北海道の学校生徒食料品に道産物を用ゐる件回答

九ノ廿八号

東京三等出仕

書記官

札幌書記官

北海道学校生徒食料之糴可成該道産物相用度長官意見ニ付實際被行

候様手続可調越旨札第四百廿七号御来意了承当地農学校ニ於而者從來既ニ其趣意ヲ遵守シ渾而北海道産ノ麦肉類等ヲ用ヒ洋食為致居候又公私学校江相及ホシ候義ハ御来意之通り不容易儀ニ而是迄屢實際ニ相試ミ候得共兎角永統相行レ兼往再今日ニ至リ候乍然尚精々取調其方法追而可申進此段及御回答候也

十三年九月十四日

付 北海道の学校生徒食料品に付申入

札第四百貳拾七号

札幌書記官

東京三等出仕

書記官「金井」
〔朱書〕

北海道学校生徒食料之義改良致度可成該道ニ而収獲スルモノヲ以テ滋養分含有之重ナル品ヲ与ヘ候ハ、現今将来ニ於而其効可有之乍併一時ニ之ヲ施サントスル者不容易事故差向試験トシテ官立学校ノ分麦玉蜀黍馬鈴薯肉類等ヲ該料ニ充執行シ漸次公私立学校ヘも及サレ度長官見込ニ有之右主旨御了承外ニも適當之品有之候ハ、御差加ヘ實際被行候様ノ手続御調越相成度此段申進候也

十三年七月廿二日

〔農〇九四〕

四三三 玉葱販売に付依頼

物往第四十号

東京物産取扱所長

札幌書記官

当地農学校園ニ於テ栽培セル珠葱土地ト氣候トニ適ヒ其結果甚タ可見モノ有之然ルニ地方之需用モ僅々ニ有之就テハ御地方面ニ於テ売捌之如何ヲ試ミ度ト存候ニ付今玄武丸便ヲ以テ貳百六拾式斤差漕候条御査領之末其筋ニ於テ販売御取計相成度昨年横浜在留之商人ヘ扨下候処同所到着不殘腐敗致候趣申出右ハ唯俵詰ニして荷造等ヲ致サバルより生シタルカ將タ瀛船ニテ自然溫氣ニ触レ然ラシムル所カ了解難致依テ此度者函詰ニして差送候間現品着之上無事ナルヤ否電報御通知相成度尤当地貯藏之分猶五千斤余有之ニ付販売ノ景況ニヨリ幾許ニテモ御回シ可及候条其都合向御通信有之度別紙代価付ヲ添此段及御依頼候也

明治十三年十月十三日

追テ本文荷造等良便之方モ有之候ハ、御呈示有之度候也

〔別紙〕

記

- 一 早熟黃色珠葱 百三十七斤
- 一同 紅色同 百貳拾五斤

右紙長六拾五片

此代金拾四拾八錢 但元種百片ニ付金四兩之端

右之通

〔慶〇九五〕

四三四 農業実習再開に關する本科一年生の要請書(一〇頁)

Supporo Agricultural College
[sic]

To President William P. Brooks.

We undersigned your humble pupil, are exceedingly sorry to hear that your illness lasts so long that till this day you are unable to discharge your business. But, at the same time we are glad to hear that you are getting better and better day after day. We eagerly desire that you would soon become quite well, and to have our duties under you.

Sir, we are rather perplexed and feel unwilling to bring out and place before you the following matter, which contrary to our affection and which seems rather impudent and impolite; yet notwithstanding these, we are hard pressed by it, and are in the strongest necessity of stating it.

Over many hundred miles, through the foaming waves and over hoary mountains, from the crowded city to the secluded and solitary place, which a few years ago had been so desolate and dreary, that the only inhabitants were semibarbarian Ainos; leaving behind us our parents, brothers and friends, we have come out to promote the welfare of our country; and in order to render our country prosperous, we must make our agricultural system more elaborate and extensive. This is the arch-object upon which this college was established; and agriculture, like many sciences has its foundation to practice rather than to theory.

Now the teachings of agriculture and that of manual labor are assigned to you, but now, you are in a position of being unable to teach your humble pupil and to discharge the heavy duties which the director has confided to you.

Reflecting back, more than forty days have elapsed since we have ceased to work upon our manual labor, and as winter approaches, we shall soon be in a situation to relinquish our works for several months. Sixty days have passed away since our entrance to this college, and from that time forward, only twice we have experienced our most useful and important duty — that of manual

labor.

This is the unhappy prospect for us, and would be more so, if the labor been stopped longer. We are now in a position as a child before maturity; his future care is based upon the education of his earlier days, if he is brought up in an active way and carefully educated, he will certainly become a man if business; but on the contrary, if his education had been neglected, he would become a man of no hope; so our future development lies at this moment; if we now cease our manual labor, even for a time, we have less chance of working in pure air, which is indispensable to health; and if we remain long in this state, it will soon become our habits, and would be enslaved by it, then we have our limits undeveloped, our bodies lose much of their stimulus we become lazy and torpid; then the mind surrounded by such discouraging circumstances will droop and wither away like a plant in an congenial air, and at last would sink into a kind of listless apathy from which to recover would be a task of infinite difficulty.

As we have stated a few lines back manual labor as applied to agriculture is the most important and useful, and as its experience is the foundation of our future development, we apprehend

that even for a time, we must not cease to work it, and to shrink back from it is quite contrary to our volition and will.

But, unhappily nature as if conspiring against us has rendered the profesor, under whom we labour, unable to do his business; our depression and anxiety stick deeper as your illness last longer:

Although the art is long, but the time is fleeting, and as we shall never gain the time, we are in a tip-toe expectation of working manual labour this month, the next month is November, snow will begin to fall, and we shall soon be obliged to stop our field-work for several months. If this be the case this year twice and only twice we have to experience our most useful and important occupation — the manual labour.

We have eagerly longed for your becoming perfectly well, but not yet our hope had been fulfilled.

Night and day, we laboured under anxieties, as all of members of class have imquenchable thirst for manual labour, we confined together and after much hesitations and scruples, at last have come to a decision that under any one we desire to labour, who shall occupy your place for a time that is to guide us in the name of

yours. — And as we think that the decision of this, is under your control & in your will, we most humbly beg and eagerly solicit that you will choose any one whom you think quite fitted for filling your place during your illness.

Therefore we have dared to place before you this petition in spite of your illness and regardless of our impudence and rudeness.

Your most obedient and humbled pupil,

T. Fukushima T. Hayakawa G. Hondo A. Hosokawa
M. Kashiramoto K. Kawamura T. Kuromiya K. Kikuchi
K. Minasu T. Mori T. Nakagawa H. Nakane
B. Oka T. Sase S. Shiga Y. Takenobu
J. Teshima S. Watase K. Yamashita S. Yuki

〔ブルックス五三〕

四三五 仏国留学生西村哲帰朝の届

乙第七号

海外留学生西村哲帰京ノ義御届

当使官費生徒西村哲義去ル明治九年九月甲第十九号伺済ノ上仏国留学罷在候処本年春以来肺疾ニ罹リ到底該地於而者療養モ不充分ノ趣医師診断ニ依リ客月廿一日帰朝候条此段御届仕候也

明治十三年十一月十日

開拓長官黒田清隆

太政大臣三条実美殿

〔道一〇七六八〕

四三六 サマーズ申出の書籍購入に関する件

第百六拾五号

千八百八十年十一月十七日札幌呈

札幌農学校長開拓大書記官調所広丈閣下

書籍類購入之儀ニ付教授サンマルスヨリ森氏ニ進達セル書翰同氏ヨリ余ニ贈遺ニ付即チ謹テ呈供仕候右購入ノ儀ハ都テ同意難仕乃チ其理由ヲ左ニ挙ケン

第一 甲印ハ既ニ注文済ノモノニシテ則文庫ニ現在ス

第二 乙印ノ分ト同旨趣ノ書籍ハ一部現在セリ故ニ更ニ購入ヲ要セ

ズ

第三 丙印ハ専ラ経歴ト文学トラ旨記セルモノニシテ医学士カツタノ教授スル所ナリ其趣意タル悉ク同人ノ所要ニ係リ且既ニ購求申出ノ旨ヲ了承ス

右ノ次第二付斯ク夥数ノ学課用書籍購求之儀ハ実益無之乍併丁印ノ分而已ハ各一部ツ、購入アラシラ勸奨ス

第四 戊印ハ生徒学読上有益アラザルヲ以余之ヲ承諾スルヲ得ス

將又シエークスピア局第八世ヘンリー伝註解入二十部購入致度旨尚
又医学士カッタヨリ申出候其代価ハ教授サンマルス目錄ノ初發ニア
ルビニス商賈ノ伝ニ異ナルナルベシ此段副申候也

札幌農学校教頭心得ウキルリアム・ピール、ブルークス謹言

〔別紙〕

千八百八十年十一月十六日

呈札幌農学校森源三殿

貴翰ノ来意ニ応シ別記書目送呈仕候右ハ本校并予科ノ為ニ得テ以テ
須要ト被存候將又当文庫ノ備用ノ為更ニ他ノ書目ヲ添載仕候書中ホ
字ヲ記セシ者ハ本校用トシ、ヨ字ヲ記セシ者ハ予科ノ積ニ有之候
小輩ノ思考ニハ本、予、両科ニテ二十部乃至二十五部許被購候方適
宜ト被存候其故ハ二十五部一括ニ之ヲ購求スル時ハ買客ノ為ニ代価
ヲ減却スル甚タ多シ通常価記ヨリ二割五分乃至三割ノ価ヲ減スベシ
且前価惣額ヲ計算スルニ凡洋銀貳百弗ニシテ足レリトスベシ尤運賃
保険料等ハ中ニ含マサル者トス敬白

ゼームス、シンモンズ

倫敦府ウイリエム、コルリンス商社刊行書目

ホ 一 セーキスビーヤ著
ウエニス商賈ノ伝(注解入) 一部ニ付 一シル
ニ当ル 廿五セント

ホ 一 ジュリユース、シーザルノ伝 一部ニ付 一〃

ヨ 一 モリソン著英文軌範 〃 〃 一シルリン、六ペン
ス、ハ二錢ニ当ル

ヨ 一 ウラルトル、マクロード著
文章注解 〃 〃 一シルリン六ペン
ス

乙 一 ホ 一 レイニング著英国文学歴史 〃 〃 一シルリン六ペン
ス

甲 一 ホ 一 英文書類集 一シル六ペン
ス

甲 一 ヨ 一 デーウ氏著経蹟万国史 一シル、六ペン
ス

ヨ 一 言詞来由辞書 一シルリン
グ

倫敦府カセル、ペートル社刊行

甲 一 〔注二〕
ブ 一 アーダムス著英国文学辞書 十シルリン六ペン
ス

ブ 一 万国風土記 一部五卷 七シルリン
ク

ブ 一 ブロートン氏格物記術 一部二卷 九シル
ーリン

ブ 一 大英国巨大工業 一部三卷 七シルリン六ペン
ス

倫敦府ロングメン社刊行

ヨ 一 読書必携 一部五卷 四シル十一ペン
ス

丙 一 ホ 一 近世史 一部五卷 二シル六ペン
ス

丙 一 ホ 一 ボルレル氏著羅馬餐史 三シル六ペン
ス

丙 ホ 一 古代歴史

○

丙 一 アセニヤン帝国記同希臘人及伯品西人部

五シルリング

丙 一 倫敦ジョン・モレイ社刊行トームスノ著
ゴール人羅馬掠略迄ノ歴史

二シル、六ペンス

ヨ 一 小学校用近世地理学教授書

五シルリング

ヨ 一 倫敦デョーシベール商社刊行
小学近世英文範科教授書

三シル六ペンス

ホ 一 フレデリック・シーケル著文学歴史

三シル六ペンス

ブ 一 古物学手簿

七シル六ペンス

ブ 一 プラチー社刊行
シエーギスビーヤ氏戯曲書

七シルリング

丁 ホ 一 同著読本并新聞読本新註中ノ要件抜萃

三シルリング

倫敦府ウキリアム、コルリン商社刊行書籍目録補欠

一 シンクスビーヤ著ウエニス、商賈ノ記

二拾部 一部ニ付一時哈

一 ジュリユースシーザルノ伝

二拾部 一部ニ付一時哈

一 第八世ヘンリーノ伝

二拾部 一部ニ付一時哈

一 モリソン著英文軌範

二拾部 一部ニ付一時哈
五辺士

一 倫敦カルベン街カッスルベットル刊行来由辞書

二拾部 一時哈

一 江湖世界国土ノ記 老部五卷

各七時哈七辺士

一 ドクトルブロン著學術書 一部貳卷

各卷九時哈

一 倫敦ロングウラム商社刊行大英國大工業書

一部參卷 各卷七時哈六辺士

一 読書必携

貳拾部老部五卷老部

四時哈拾一辺士

一 近世史

一摘

各部 二時哈六辺士

一 ボルレル著羅馬餐史 一部

三時哈六辺士

一 コック著アセン帝国希臘人及ヒ伯品西人 一部二卷

五時哈

一 倫敦デョーシベール商社刊行
トームスノ著ゴール人羅馬掠略迄ノ歴史

一部 二時哈六辺士

一 近世地理学ノ教科書 二拾部

一部 五時哈

一 倫敦デョーシベール商社刊行
近世英文範教科書 二拾部

一部 三時哈六辺士

一 フレットスレッジル著文学歴史

一部 三時哈六辺士

一 古物学手簿

一部 七時哈六辺士

一 デイ、アルリシ刊行シヤークスヒーヤタラスチツタアルト

一部 七時哈

〔注一〕 戊印の記載なし。

〔注二〕 欄外に朱書で「ブ字ハ文庫ノ意ナルベケレトモ書

中ニ述ベズ」と記載あり。

〔道〇三八三二〕

四三七 外国新聞送付の件

調第貳百四十七号

札幌学務課

東京調度科 印

其庁十三年度外国品見積書中其課需用ノ外国新聞紙別記之通今般郵達候付高千穂丸便ヲ以廻致候条御查入追而受取証御差越相成度此段申入候也

十三年十一月廿日

追テ本文ノ内「ラントエントホーム」ハ現今出版停業致候旨大蔵省より報道有之候条御了承相成度此段申副候也

〔別紙〕

入 記

丁第五十九号

一 延包函

沓 個

内

エヌ、ワイグラフィック

八十三部

サイエンチフィックアメリカン

拾六部

右附録

拾六部

アメリカン、シヨルナル、オフ、サイエンス、アンドアート

三部

リテラリー、ウォルド

七部

ハーブルス、ウキークリー

拾五部

アメリカン、アグリコルチュリスト

五部

コントリリ、ゼントルマン

拾三部

ウキテリナリアン

三部

ガードノルス、モンスリー、アンド、ホルチュルチュリスト

三部

セントニコラス

四部

スクリブネルス、モンスリー

四部

イラストレテッド、クリスチアン、ウキークリー

拾五部

イラストレテッド、ロンドンニュース

拾三部

右之通

〔農〇九二〕

四三八 ビーボディ雇継承諾の請書

第百八十号

千八百八十年十二月十一日於札幌

呈開拓大書記官調所広丈閣下

去る十日附貴翰之趣拝承右ハ小生約定書本年十二月廿六日ニ於テ満期相成候処黒田長官殿ニ於テ更ニ延期被成即チ来明治十四年七月卅

一日迄従前同一ノ定約ヲ以テ御雇繼相成候趣承諾仕候尤右第五条中
左ニ記スル文義即チ「給料トシテ一ヶ月日本貿易銀貳百五十円若ク
ハ開拓使ノ都合ニ拠リ同相場ノ日本紙幣ヲ同氏江弘フベシ」之廉
ハ「給料トシテ一ヶ月日本銀貨貳百五十円同氏江弘フベシ」ト相改
メラレ而シテ他ノケ条ハ従前ノ通ヲ以テ御雇繼相成候趣領諾仕候也

シー、エツチ、ビーボデー識

〔道〇三八三(ビーボデー七)〕

四三九 明治一四年度外国よりの購入品に付伺

農第百十九号

上局(調所)

農学校(調)(加藤)(加藤)

(調)(佐藤) 外事課(調)(小林)

(調)(内海) 検査課(調)(福沢)

一 仏蘭西貨幣貳百貳拾五フランク

是ハ仏国ヨリ可購入顕微鏡代

一 米利堅貨幣三百八拾六弗拾五セント

内訳

貳百拾三弗八拾セント

器械類

百五拾八弗三拾五セント

書籍類

拾四弗

藥品雜品

一 金四拾四円

是ハ東京ニ於而可購求洋書代

明治十四年度学校費ニ係ル外国品購入金額諸教師ヨリ申出候分精々
節減為致候得共別紙記載候分者何れも学科上必用之品ニ付購求方御
許可相成度右御允裁之上ハ外事課ニ於而成規之通取計候様可仕此段
相伺候也

* 十三年十二月六日

* 「其後第貳拾三号ヲ以テ本使定額御渡年限ハ十五年一月

ニ於テ満期ニ付十四年度予算ハ十四年七月ヨリ十五年一

月迄調整可差出云々依テ別紙見積書中朱書ノ通り刪正セ

リ後ノ参考ニ供セン為メ玆ニ付箋ス

明治十四年二月十七日(調)(加藤)

〔別紙〕

明治十四年度 〔朱書〕
同十五年一月迄ノ分 外国品購求見積書

常用ノ部

器械類

十四年 月用

仏国巴里セント／セウエリユー街拾七番地館ノセット／エ

ー／フキース」より購入

〔朱書〕

一 双眼顕微鏡

壹個

第三拾貳号

凡積代価金

此仏貨百五拾フランク

受領場所 横浜敷

此器械ハ札幌農学校ニ於テ解剖学ヲ教授スルニ用ユ

〔朱書〕
〔カ〕

一 マイコロメイトル視鏡（可動）

三個

尺寸

凡積代価金

此仏貨四拾五フランク

受領場所 前ニ同じ

所要事由 同

〔朱書〕
〔カ〕

一 カメラ／＼ルンダ

貳個

尺寸

凡積代価金

此仏貨三拾フランク

受領場所 前ニ同じ

所要事由 前ニ同じ

器械類

〔朱書〕
〔消〕

一 十四年 月用

米國抹州ホストン府プロブキンス／＼コールド街九番ボツフ

〔朱書〕
〔土〕

／＼エンド／ベルゲル商社ニテ購求ス可キ分

壹個

但拾八英寸直立望遠鏡及クラムプ并タンゲント螺糸釘
附屬

凡積代価金

此米貨百四拾五弗

受領場所 横浜

此器械ハ札幌農学校ニ於テ土木学教授スルニ用ユ

〔朱書〕
〔土〕

一 フキラドルフキア平準竿

貳個

寸法

凡積代価金

此米貨三拾六弗

受領場所所要要旨前ニ同じ

〔朱書〕
〔土〕

一 鍵索

壹条

長百英尺但し蠟附セル鎖及鎖なり

凡積代価金

此米貨拾五弗

〔朱書〕
〔土〕

一 鉄製下ケ振

貳個

凡積代価金

此米貨壹弗半

〔朱書〕
〔土〕

受領場所所要旨前ニ同じ

一 リーディング鏡

壹個

凡積代価金

此米貨五拾セント

受領場所所要旨前ニ同じ

米國紐育府「バルクレイ／ストリート」拾番地「ベンジャミ

ン」氏方ニテ可買入分

〔朱書〕
〔舎〕

一 モールス氏量液管

貳個

周圍貳寸 長貳尺

凡積代価金

此米貨六弗

受領場所 前ニ同じ

此器械ハ札幌農學校ニ於テ化学ヲ教授スルニ用ユ

〔朱書〕
〔舎〕

一 ゲースレル氏炭酸試験器

壹個

長サ五寸

凡積代価金

此米貨壹弗五拾セント

受領場所所要ノ要旨前ニ同じ

〔朱書〕
〔舎〕

一 瓦斯産製器

壹個

長壹尺五寸 周圍壹尺

凡積代価金

〔朱書〕
〔舎〕

此米貨六弗八十セント

〔朱書〕
〔舎〕

一 「ビュレット」スウインマル

三個

長壹寸

凡積代価金

〔朱書〕
〔匙〕
是迄取消

此米貨金壹弗五拾セント

書籍ノ部

十四年 月用

英國龍動府ウイリアム、コルインス商社刊行

一 シエーキスビーヤ著ウエニス商賈ノ伝註解ス

二十部

凡積代価

此米価五弗

受領場所 上ニ同じ

此ハ札幌農學校教授用以下同じ

一 英國文学歴史

二十部

同

此米貨六弗四十仙

一 シーケル 文学歴史

同

同

同十八弗

英作文法	同	同十三弗五拾仙
同		
同五弗		同
各国史	二十部	同二十弗廿五仙
同		同
同十八弗		古物学手簿
羅馬史	同	同
同		同二弗
同十八弗		一 シエキスピア戯曲書
同		同
シエキスピア読本	同	同 老弗九拾仙
同		米國ボストン府華盛頓町ウキリアム商社ヨリ可購入新聞雜
同五弗		誌類
英文軌範	十五部	十四年七月一日ヨリ
同		一 亜国學術新報 十四年七月ヨリ 同 十二年六月迄半年分
同四弗八十仙		同附錄 毎週刊行
小学近世地理書	十五部	此代金 五十セ
同		此米貨五弗
同二十一弗		ポピラー、サインス月報 同上
同英文法	同	此代金
同		米貨五弗 武 五拾セント

一 亜国農夫新報

此代金

此米貨 七拾五セント
一弗半

一 英国獣医月報 同上

同

同 式 五拾セント
五弗

一 チカゴ府大曠野農夫週報 同上

同

同 卷 五十セント
三弗

東京或ハ横浜ヨリ可買入分

一 ロスコ―氏大化学書

凡積代価金貳拾四円

一 ロビンソン氏実用算数学書

凡積代価金貳拾円

雑品之部

十四年七月用

一 白金線

凡積代価金

此米貨四弗

受領場所

一 瑞典濾紙

凡積代価

此米貨三弗

所要事由前ニ同シ

一 仏蘭西濾紙

凡積代価

此米貨貳弗

所要事由前ニ同シ

薬品之部

十四年 月用

米国紐府バルクレ―、ストレート拾番地ベンジヤミン氏方

ニ而可買入分

一 ニコチン

四分ノ一オンス

凡積代価

此米価四弗

受領場所

此薬品者同校ニ於而化学教授ニ用ユ

一 ストレキニーネ

四分ノ一オンス

凡積代価金

貳帖

五帖

三卷

二十部

六尺

此米貨券弗

〔農一〇一〕

志難黙止一応進達仕候間何分ノ御指揮相成度此段御内意相伺候敬具

明治十三年十一月十九日

調所広丈㊦

四四〇 農学士荒川重秀佐藤昌介留学不許可の件

〔別紙〕

黒田長官殿

農学士荒川重秀外一名米国留学願書添御申出ノ趣承知致候然ルニ海外へ留学致候進学業頓ニ進歩セルモノニモ無之且現今財政ノ景状ニ依リ一般官費留学生ハ差止メノ問題モ有之候程ノ義殊ニ来年度ヨリ当使需用ノ正貨ハ五万円ヲ限り候御達ニテ現在支用高ニ不足ヲ生シ候次第ナレハ右荒川外一名出願ノ旨趣ハ一応尤ノ事ニ候得共前述ノ訳柄篤ト諭達本人共能ク其意ヲ了解候様御取計可有之此段申入候也

十三年十二月六日

黒田長官

調所大書記官殿

付 荒川重秀外一名留学の儀伺

本使農学士荒川重秀佐藤昌介義米国留学被命度段別紙之通懇願書差出来候然ルニ農学卒業生海外留学ノ義ニ付テハ嘗テ函館表御滞在中奉伺其節留学ハ御差許不相成旨御下命ノ趣モ有之義ニハ候得共本人共ノ志望割切ナル次第ニ付特別ノ御詮議ヲ以テ願意御許容相成ニ於テハ当道開拓上ニ取り有益ナル更ニ陳述ヲ俟タサル義ト存候尤モ方今ノ御場合ニ付閣下ノ尊慮果シテ如何トハ恐察候得共斯ク折角ノ積

微臣農学士荒川重秀佐藤昌介謹テ書ヲ調所公閣下ニ呈ス臣等才識譾劣学問空疎而シテ曩キニハ農費官費生タルノ台命ヲ辱シ在学多年焉其間衣食ニ居室ニ書籍ニ凡そ書生就学ノ為メ要スル所ノ者ハ一トシテ本使ノ之ヲ供給セザルハナク本使ノ臣等ヲ待ツや実ニ優渥周到臣等ヲシテ不覚感泣奮起セシムルコト屢々ナリキ嗚呼臣等ハ何等ノ幸福男兒そ何等ノ冥利書生そタトヘ新開ノ邦土絶海ノ窮島ニ按息スルモ起居安逸暖衣飽食凍天ノ風雪ヲ冒スモ敢テ其酷寒ヲ感セス物価ノ騰貴ニ逢フモ更ニ其困苦ヲ知ラス兵馬ノ倥傯ナルヲ聞クモ毫モ其禍害ヲ享ケス断トシテ内顧外眷ノ煩ヲ絶チ静ニ良師ヲ仰キ典籍ヲ友トシニ就ク所ノ学ヲ専修スルヲ得タルハ実ニ本使ノ供賜偏ニ長官閣下ノ命ヲ奉シ閣下ノ計画スル所アルニアラスンハ焉そ此ニ至ルヲ得ンヤ嗚呼閣下ハ農費ノ柱礎臣等ノ師伝ト云モ誰カ臣等ヲ目ステ溢美ノ諛言ヲ呈スルモノトセン然而本使ノ如此優渥ノ鴻恩ヲ垂レ臣等ニ待ツモノハ他ナシ深ク学問ノ微妙ヲ探リ芸術ノ蘊奥ヲ叩キ之ヲ實際実務ニ活用施行シ大ニ全道ノ開拓興農起業ニ裨益スル所アルヲ期セラルニアルヤ必セリ臣等無似ト雖トモ厚ク此意ヲ肺肝ニ銘シ円枕鑑

股學ヲ勉メ垂帷閉戸思フ精シ夙ニ大成ヲ期シ幸ニ今玆七月定規ノ課程ヲ卒ヒ考試ヲ經テ科第ニ登リ農學士ノ顯号ヲ賜ハリ直ニ本使ノ採用ヲ蒙リ身ヲ仕進ノ末班ニ列ス嗚呼臣等ノ光榮モ亦タ大ナリ然而臣等如此未嘗有ノ學位ヲ拝受シ書生無比ノ光榮ヲ忝冒シ中心常ニ惶懼止ム能ハサルモノアリ何ソヤ曰ク臣等學淺才拙上ハ本使ノ特旨ニ稱ハス下ハ公衆ノ岐望ニ副ハス其罪深且大ナルコト是レなり蓋シ所謂農學ナルモノハ内ニ含密本草獸醫ノ諸科ヲ包含シ其意義タル頗ル容闕駁難決シテ算數ノ簡單統一ナルモノニ似ス故ニ深ク其奧妙ヲ探ント欲セハ必ス広ク格物窮理ヲ涉猟シ多年ノ經驗考究ヲ積み始メテ農學ノ何者タルヲ談スヘキなり我邦古來農ヲ以テ國ヲ立テ經驗之久も農事ニ於テ務メサルモノナシト雖トモ農家其然ル所以ノ理ヲ知ラス偶農學師佐藤信淵翁ノ如キモノ世ニ出テタリト雖トモ其説ク所大概ネ封建治世ノ農政ニ亘ルモノ多ク造化ノ妙法ヲ觀破シ農學ノ真理ヲ發悟セルモノ甚タ稀レなり故ニ臣等農覺ニ在リ日常農學教師ニ親炙シ其講スル所ヲ聞キ其施ス所ヲ視ル毎ニ探ク泰西農學ノ進歩ヲ羨シ我邦農家ノ旧法ヲ墨守シ事理ニ疎キヲ嘆セシンハアラサルナリ然而奮然以為ク彼ノ長所ヲ取り我短所ヲ補ヒ以テ農事ノ改良進歩ヲ促シ大ニ拓土植民開物成務ニ益シ遂ニ全道ノ殷富隆盛ヲ來サレハ是レ本使巨額ノ費ヲ吝マズ農覺ヲ設ケ厚ク書生ヲ薰陶セラル、所以なり故ニ臣等日夜蠲齷泰西ノ文物ヲ我邦ニ移スヲ務メサルヘカラスト雖

然農覺ニ在ツテ教育ヲ受ケシモノニテソノ或ハ樹芸或ハ牧畜或ハ園農或ハ治療ニセヨ未タ我邦ニ實施セザルモノ多ニ居ルヲ以テ其理由ヲ聞クモ其実行ヲ見ル能ハス其然ル所以ヲ談スルモ其為ス所ノ業ニ於テ拙ナルコトヲ免レス臣等之ヲ反省シ深ク心ニ愧シル所ナキニスモアラス古人曰百聞ハ一見ニ如スト願ハクハ一タヒ海外ニ航行シ親シク農事ノ實際ヲ觀察シ大ニ利害得失ノアル所ヲ研究シ之ヲ平素學ヒ得タル所ニ反省セハ遙ニ万卷ノ書ヲ讀ミ空々理論ヲ談スルニ勝ルヘシト雖然當時未タ學業ヲ卒ヒス亦タ典籍師友ニ乏シカラス敢テ渡海ヲ請願スルハ潛越ノ罪ヲ犯スヲ免レスト思考シ屢々東隣北米聯邦ノ天ヲ望ムノ念心ニ萌スモ自ラ心ニ問ヒ心ニ抑サヒ孜孜螢雪ノ功ヲ積ミ學成ルノ日ヲ待ツや実ニ一日千秋ノ思ヒヲナセリ且ツ又タ以為ラク文部工部司法及海陸ノ諸省ニ於テ卒業生ヲ海外ニ留學セシメ其大成ヲ期セラル、ノ挙アリ我開拓使長官ノ賢明ナルアリテ加ルニ閣下之ヲ翼賛ス焉ソ独リ此ニ視ル所ナカラザルヘキ況ンヤ既ニ本使ニ於テモ二三ノ學生ヲ米ニ仏ニ留學セシメラル、ニ於テヲヤト深ク留學生派遣ノ美舉アラセラル、ヲ期望セシニ既ニ臣等農覺卒業已來殆ント半歳ヲ閱シ未タ嘗テ其議アラセラルヲ聞カス而シテ本使ハ夙トニ臣等ヲ待ツニ官責ヲ以テス臣等固ヨリ多年本使ノ厚恩ヲ受ク焉ソソ焦心粉骨タトヘ河海ノ一滴九牛ノ一毛タリトモ其報効ヲ致サスシテ可ナランヤ雖然臣等淺學菲才タトヒ道理ヲ曉ルモ事業ニ拙ナリ

叨ニ学士ノ頭号ヲ受ケ至大ノ光榮ヲ冒スモ果シテ其実力実効アルヤヲ知ラス思フテ爰ニ至レハ慙愧冷汗滴ルヲ覺ユルナリ退テ民間ニ在リ切磋ノ業ヲ積シカ敢テ恐ル本使ノ期望ニ悖リ本使ノ鴻恩ヲ空フセシコトヲ進ンテ仕進ノ班ニ在リ大ニ興農殖産ノ道ヲ計画セシカ敢テ恐ル實際ニ暗ク官實ヲ尽ス能ハサランコトヲ之ヲ思ヒ彼ヲ思ヒハ惶悚惴々寢食猶安ラヌ嗚呼后天后天臣等ノ丹心ヲ知レリ臣等百歳ノ後チ永ク北海道ノ良友トナリタトヒ屍ヲ風雪ノ北境ニ晒シ骨ヲ広漠タル石狩ニ埋ムルモ誓テ經世富國ニ利用厚生ニ拓土植民ニ一ニ全道ノ為ニ計画スル所アラント欲ス雖然如何セン業志ニ随ハス蓋シ臣等又タ浅学菲才ナレハなり嗚呼閣下ハ臣等ノ師傅タリ臣等ノ丹心ヲ吐露スルハ閣下ニアラスシテ誰ソ仰テ顧ハクハ閣下臣等区々ノ微衷ヲ憐察シ臣等ニ仮スニ三四ノ星霜ヲ以テシ米國留学ヲ命セラレナハ臣等ノ幸福之レヨリ大ナルハナシ果シテ然ラハ臣等ハ何等ノ幸福男兒ナルモ何等ノ冥利学士ナルモ何ソ独リ臣等ノ幸福臣等ノ冥利ニシテノミ止マンヤ蓋シ臣等ハ外邦ニ於テ臥薪嘗胆親シク稼穡ノ艱難民生ノ休養動物ノ飼育樹芸ノ便利器ノ用ヨリ農業ニ関セル百般ノ事業深ク其實際ヲ視察シ自ラ之ニ當リ經驗考究事理ノ探知スヘキハ之ヲ農學博士ニ質シ併セテ西南諸州目今開拓ノ実況耕地ノ配置民口移植ノ方法政務及ヒ村落ノ設置ニ至ルヤ尽凡ソ耳目ノ及フ所ハ之ヲ聞見シ他日帰朝全道ノ開拓ニ於テ大ニ裨益スル所アラシヲ期セハナリ閣下

大慶臣等ノ燕言ヲ容レ臣等ノ哀願ヲ許シ玉ハ、臣等益本使ノ鴻恩優渥ナルニ感激シ愈々學術ヲ研磨シ誓テ學士ノ頭号ヲ汚サス本使ノ特旨ニ副ハントス冀クハ閣下諒察ヲ垂レ玉ハンコトヲ臣等尊嚴ヲ冒瀆シ罪万死々々微臣農學士荒川重秀佐藤昌介頓首再拜

明治十三年十一月十七日 上呈

〔道〇四四三三〕

四四一 化学用書籍等購入の伺（二月二〇日検印済）

上局

札幌農学校印（移）印（加藤）

農第百二十三号

印（内海検査課印）（備忘）

一 金四拾三円四拾錢

別紙ロスコー氏小化学書貳拾卷冊外五品本校ニ而当期学科上必需品ニ候処御用係宮崎道正當夏東京表ニ而買入所持致居候ニ付御買上相成候様致度御入費之義ハ予算中より御支出相成度併而此段相伺候也

十三年十二月

〔別紙〕

記

一 ロスコー氏小化学書

貳拾壹冊

此金貳拾貳円三拾貳錢五厘但舊冊金壹円〇六錢五厘

一 同大化学書

壹冊

此金八円也

一 ボーマン氏実地化学書

此金三円貳拾五銭

一 水銀桶

此金三円三拾銭

一 ユジラメートル

此金四円貳拾五銭

一 デスレール氏ボツタース球

此金貳円貳拾七銭五厘

合金四拾三円四拾銭

右之通候也

十三年十二月

〔注〕冒頭に「㊦(鈴木)輸入品購入規則ニ乖戾セサル様可

取計事」とあり。

〔農一〇一〕

宮崎道正㊦

四四二 官費生徒支給金並に貸費額増額の儀伺

長官

調所大書記官

札幌農学校官費生徒支給金去ル明治十一年ヨリ屯人一ヶ月金拾三円
ツ、給与致シ来リ候処爾来物価逐々騰貴本年ニ至リ而者殊ニ困難ヲ

極メ候依而諸給与品十分節減ヲ加ヘ候上猶屯ヶ月金三円ヲ増加スル
ニ非サレハ到底相支兼候間御許可相成度又貸費生徒ハ月額ヲ金九円
ト相定候得共是又官費生徒同様金三円ヲ増加月額金拾貳円ニ相定候
様仕度此段相伺候也

明治十三年十二月

〔農一〇四〕

四四三 外国よりの購入品節減の旨通達

第百七拾二号

千八百八十一年七月ヨリ同八十二年六月迄ニ可購求外国品目録諸教
師ヨリ申出候分取纏被差出候処当今諸官衙共非常節儉ノ折柄外国輸
入品ハ殊ニ節減ヲ加ヘサルヲ得ス依テ書籍新聞等ハ別紙目録(原書
中朱点ヲ加ヘ候分ハ見合セ候様可致又解剖学用トシテ仏蘭西国へ注
文品中顕微鏡三個ト有之候得共其中屯個トカツター氏所持ノ分屯個
新ニ譲受可申候ニ付該品ト是迄校中有合セノ品ト共ニ併用シ当分差
支モ有之間敷ト存候間是又見合候様可致右御了承諸教師へモ御通達
可有之此段申進候也

明治十三年十二月

開拓大書記官調所広丈印

教頭心得ウキリアム、フルークス貴下

〔道〇三八三〕